

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2022
11
November

地域農業をリードする熱き農業者達

第19号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

C【目次】CONTENTS

<巻頭言>

- 一人でも多くの人材を農業現場へ (和歌山県農林大学校 校長 小畑 利光) …………… 1
楽しく農業やっています! (和歌山県農業士会連絡協議会 事務局長 平畑 信文) …… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- 急がず慌てずの農業経営 (和歌山市 指導農業士 藪 利昭) …………… 3
移く行く環境に適応する農業 (紀の川市 地域農業士 平井 正晃) …………… 5
そろそろ旅行に行きたい (かつらぎ町 地域農業士 前坂 昇義) …………… 7
作業効率と高品質果実生産をめざして (有田市 地域農業士 上野山 和広) …………… 9
「食べていける農業」を後代に伝えたい (みなべ町 指導農業士 稲見 好明) …………… 11
もっと楽に農業をしていきたい! (田辺市 指導農業士 山本 由美) …………… 13

<農業に懸ける想い>

農業への熱い思いや取り組みを紹介

- 家族と寄り添える農業を (和歌山県4Hクラブ連絡協議会 山本 敦喜) …………… 15
次の10年に向けて (紀の川市 地域農業士 中西 伸弥) …………… 16
ぶどう観光農園への想い (かつらぎ町 地域農業士 下垣内 泰貴) …………… 17
作りたいみかんを作る (有田川町 高岡 佑也) …………… 18
ミニトマトの栽培をはじめて! (日高川町 地域農業士 伊奈 稔勝) …………… 19
新しい事への挑戦!! (田辺市 青年農業士 鈴木 惣志郎) …………… 20

<県農林大学校学生です。>

農学部1年生の自己紹介&近況報告(第1回) …………… 21

園芸学科

- 井上 創太 上野 拓人 上 藪 一 悠 河 村 宗 弥
久 世 喬 生 久保田 隼 登 倉 園 侑 人

<試験研究レポート>

タバココナジラミに効果がある薬剤の検討

- (農業試験場 環境部 主任研究員 岡本 崇) …………… 25

かき「紀州てまり」のへたすき果発生軽減技術および接ぎ木更新時の省力樹形開発

- (果樹試験場かき・もも研究所 主任研究員 有田 慎) …… 27

和歌山県産霜降り豚肉の改良技術の開発

- (畜産試験場 生産環境部 主査研究員 宮本 泰成) …………… 29

巻頭言

一人でも多くの人材を農業現場へ

和歌山県農林大学校

校長 小畑 利光



農業士の皆様には、地域農業のリーダーとしてご活躍されておりますことに対し、心より敬意を表します。また、皆様には農林大学校学生の農家留学研修の受入に長年ご協力をいただくとともに、熱心にご指導くださり厚くお礼申し上げます。

さて、本校は、次代の県内農林業をリードする中核的な担い手や技術者の育成を目的に設置され、2017（H29）年に農学部と林業研修部に改編し、それまでの農業大学校から現在の名称に変更されました。農学部は園芸学科とアグリビジネス学科で構成され、2年制の専修学校として位置づけされております。

本校へ入学する学生は、2008（H20）年頃までは兼業を含む農家出身者の割合が8割以上を占めておりましたが、それ以降は徐々に低下し直近5カ年平均では4割程度、専業農家に限れば2割を下回ってきております。また、県外からの入学生が増加傾向であり、ここ数年では2割程度を占めるに至っております。これを受け、卒業後の進路も親元就農や自営就農主体から農業法人等への雇用就農や農業関係企業への就職など多様化してきております。

一方で、県内の農業を取り巻く情勢は、特に中山間地域での農業従事者の減少が著しく、耕作放棄地も段々と目につくようになってきております。本県産業の重要な地位を占める農業を支え地域の活力を維持するためには安定的な担い手の確保が必要で、農業人材育成を担う本校の役割は非常に重く、一人でも多く農業に携わる人材を輩出していくことが最

重要ミッションであると認識しております。

このため、本校では現在、農業を目指す若者に注目してもらえるよう教育内容の魅力を向上させる取組を強化しているところです。一例を挙げると、グローバルGAP認証取得の取組があります。令和2年度に柿で認証を初めて取得し、昨年度は柿に加えてトマトでも取得しました。今年度も継続認証に向けた取組を進めているところです。

また、スマート農業の推進も行っております。県内の農業関係団体等からの協力もいただきながら、園芸施設の環境制御装置や農業用ドローン、ラジコン草刈り機等の整備を行い、授業に取り入れております。

今後は、本校を卒業した人材が、如何にして農業の担い手として定着していけるかが課題となります。農業法人等へ雇用就農できれば良いのですが、自立就農する場合は初期投資などリスクが高く、経営が安定するまで周囲の支援が欠かせません。幸いにも近年、各地で農業担い手の受入組織が発足し、新規参入者が農業に定着できるように支援する取組が進みつつあり、この組織には農業士の方々もメンバーとして多数参画いただいております。

本校の卒業生は、家に農業基盤を持たない者も多くなってきております。農業士の皆様には、一人でも多くの若者がそれぞれの地域で農業に携われるように、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

巻頭言

楽しく農業やっています！

和歌山県農業士会連絡協議会

事務局長 平畑 信文



令和元年から農業士協議会の事務局長を務めさせていただいています有田川町の平畑です。コロナ禍で2期役員を務めることになったため、巻頭言の大役がまわってきてしまいました。

私は有田川町で、みかんを中心とする柑橘類の生産販売を行っている柑橘専門農家です。有田のみかん農家の長男として生まれ、農業大学校を卒業後就農しました。早いものでもう40年余りがたちます。最初は農業を継ぐのがいやだったのですが、当時流行っていたケンとメリーのスカイライン2000GT（通称ケンメリ）を買ってやるからと車につられて農業を始めました。

私の家は個選で、収穫したみかんを夜遅くまで夜なべして箱に詰めました。収穫期はどこにも行かず毎晩遅くまでみかんを詰めました。主に関東方面の市場に出荷していて、それなりに高く売れていたのですが、段々と市場の仲卸の相手がスーパーになってきて、市場価格も安値安定になってきてしまいました。

これではいけないと思っていた時、農商工連携の地域資源の会に誘ってくれる人があり、そこで自分の畑の園地条件や栽培方法の説明をする機会がありました。その会で知り合った社長に販売先を紹介してもらうことができました。試食のみかんを持って、スーツを着てネクタイをしめて大阪に行き、商談はうまくいきました。その相手とは今でも取引が続いています。

また、県の食品流通課がはじめたネットショップのわいわい市場にも出店して、ネット販売も少しず

つはじめました。直接販売は、反応がそのままストレートに返ってくるので、諸刃の剣です。みかんが腐っていたとか、つぶれていたとかいう苦情もあります。訳ありを買ったけど、こんな汚いみかんは見たことがない、など様々です。

しかし、こんなおいしいみかんは今まで食べたことがなかった。家族であっという間に食べてしまいました。とか嬉しい意見もたくさんあり、手ごたえも感じつつあります。顧客の反応に一喜一憂ですが、小売なのでそれなりに高く売れるので、今はとてもやりがいを感じています。

まだまだ勉強に終わりはなく、販売面では写真の撮り方、説明文の書き方など、買ってもらえるよう本やセミナーなどで勉強しています。

また、栽培面でも、配合肥料や液体肥料など工夫をして、収穫量を減らすことなく味の良いみかんを作るよう努力しています。また、草の種類にもこだわり、ナギナタガヤ、ハコベなどの草を積極的に生やして除草剤をグッと減らしています。

最初は半分イヤイヤではじめた農業ですが、今は畑仕事が楽しくてたまりません。ネット販売をやっているのも、朝から晩まで一日中パソコンの仕事をするのもあるのですが、気づいたことは一見パソコン作業の方が楽に思えるのですが、畑仕事の方が気は晴れるし、時間が経つのが早いし、腹が減るし、夜もよく寝られるしこちらの方が私は好きです。

幸い、我が家は長女が農業を継いでくれることになっているので、これからも、ますます楽しく農業をやっていこうと思います。

急がず慌てずの農業経営

和歌山市 指導農業士
藪 利 昭



1. はじめに

私は1981年に当時の果樹試験場興津支場を卒業し、そのまま就農しました。

振り返りますと、当時は周りの同級生達も就農する者が多く、割合安易な考えでの就農だったと思います。案の定当時のみかん経営は不況のどん底で、後にもがき苦しみ、試行錯誤の連続となります。

2. 農業経営の特徴

就農当時の我が家の農業は普通温州、ハッサク、タケノコと若干の水稻で構成されていました。特に、柑橘類は収穫期が集中し、人手も足りず、価格の低迷の常態化などで色々悩んだ記憶があります。柑橘類は収穫作業を分散させるため、極早生みかんから3月収穫の清見まで品目構成や品種の配置を労力に見合うようにしました。また、清見は冷蔵貯蔵することで販売を5月まで引き延ばし有利に販売するよう試みました。さらに、柑橘類の価格低迷を補うため、イチジクを導入していた時期もありました。当時はイチジクを加温栽培20a、露地栽培15aを行っていました。現在は家族労力が私一人となり、株枯れ病問題でイチジクからは撤退しております。

なお、私は6年ほど前から約3年間病気を患い農作業ができなくなりました。

農業経営の概況

○作付品目と面積

温州みかん	
YN26	25 a
ゆら早生	25 a
田口早生	100 a
中晩柑類	
清見	20 a
せとか	10 a
みはや	10 a
タロッコ	10 a
不知火・津の輝	10 a
西南の光	10 a
香酸カンキツ	
レモン	15 a
合計	235 a

○労働力

本人、雇用（3人）



レモンに改植したほ場にて

一時は離農を本気で考えましたが、周りの奨めや協力もあり現在は復帰し、働いています。3年余りで園地をほぼ放置しましたので、再生は無理だと思われましたが、改植事業の補助を利用しながら、それを期に3年間で柑橘類の園地を新品種に変え、9割方終えることができました。タイミング良く制度の利用ができ、改植事業の存在に対し大変感謝しております。

生産物販売に関しては、生協関係やJA、昔からの顧客への直販などを行っています。特に、生協関係へは友人に誘われて加入したのですが、価格の安定、農薬散布の削減、選果作業の軽減など私のような単身農業経営にとって最善の選択肢だと思われま。このことから、安定した農業の持続経営のためには農産物価格の安定（所得安定）、農作業の労力軽減は必須条件だと考えます。

3. 今後の経営方針

まず、健康を第一とした農業経営を考えています。農業は本当に体が資本ですので健康を壊しては何の意味もありません。当たり前のことですが、自身が病気をして改めて痛感しました。

第二として、楽しみのある農業経営をしたいと思。ある程度余裕のある経営（時間的にも、金銭的にも(^0^))へと考えますが、実際は難しい課題です。

第三として、地域社会に貢献できる農業経営をしたいと思。農業を通じて人に役立つことを何らかの形でやっていけないものかと日々考えています。今は、地域のボランティア活動（山東まちづくり会）に参加させてもらい、地域活性化活動を道の駅「四季の郷公園」を拠点として「案山子めぐり」

や「竹灯夜in四季の郷」、「クラフトフェア」などを行っています。参加してみても人に喜んでもらえるということは嬉しいことだと感じています。

これまでの農業経営を振り返り特段優れた経営をしてきたとは言えず、どちらかと言えば失敗の方が多く、未だに迷ってばかりです。しかし、これからも急がず慌てずポチポチとマイペースでやって行ければと考えています。



活性化活動拠点と案山子の設置

4. 終わりに

最近、異業種からの転職や都会からのIターン等で農業をやりたい若者が増えているように思われます。一方、後継者がなく放任してしまう園地や空き家も増加しているようです。需要と供給があるもののマッチングがうまく行っていないように思います。本誌面をご高覧の皆様、地域にマッチングがうまく行かず困っているような若者がいれば、是非協力してあげてほしい次第です。

移く行く環境に適応する農業

紀の川市 地域農業士

平井正晃



1. はじめに

私は40歳になる前に、両親が営んでいる農業の跡を継ぎました。元々、農業をするつもりでいましたが、両親にいろいろ教えてもらえるうちと思い、16年勤めた会社を退職し、農業を始めました。

その時は水なす・みかんをメインに栽培していました。最初は、父親の指示を仰ぎ、言われたことをこなす毎日でした。家の農業は、傍で見ているのと実際するのでは大きく違い、戸惑う事ばかりでしたが、少しずつ仕事も任されるようになり、何年か働くと大体の流れがつかめてきました。

水なすを栽培し続けているとやがて連作障害などが発生するようになり、今までは2回採りでしたが、1回採りにし、空いた時間は夏以降に葉ぼたんの栽培も始めました。

農業を始めて7年目の夏に父が他界し、清見オレンジ50aを残し、2.5haあったみかんを廃園にしました。現在は水なす10a、千両なす5a、きゅうり5a、ピーマン3a、清見オレンジ50a、また2回採りの代わりに葉菜類も15a栽培しています。

2. 農業経営の特徴

農業経営を始めて15年目になりますが、

現在では母親と2人で仕事をしています。年々仕事が遅れるようになってきたことから、友人にアルバイトをお願いし、水なす、千両なすのホルモン処理を3日に一回行ってもらっています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水なす	10a
千両なす	5a
きゅうり	5a
ピーマン	3a
葉菜類（葉ぼたん含む）	15a
清見オレンジ	50a
○労働力	
家族	2人
アルバイト(季節パート)	1人

ピーマンはフラワーネットを活用し、誘引しなくてもいいようにしています。

灌水は池の水の落差を利用し、コックをひねると全圃場に水がいき渡るようにしています。また園内道を整備し全ほ場に車の乗り入れを可能としたことで、収穫や農薬散布などの作業効率を良くしています。

また、ハウス内は小型の一輪車が通れるようにして、水なすなどを運び出します。

3. 今後の経営方針

農業を始めたころは、水なす・みかんは個選で市場に、葉ぼたん、うめはJAに出荷していましたが、自分が経営をするようになってからは、市場と直売所が出荷先のメインになりました。

特に最近では、直売所の出荷に力を入れ、オリジナルのシールを貼ることによる差別化を図り、リ

ピートしてくれるお客様を増やすとともに、直売所の店員さんとのコミュニケーションを大事にし、売れ残った野菜などを食べてもらって美味しさを知ってもらったり、いろいろな食べ方を体験してもらって販売してもらっています。

最近では、長らく続いている不景気や、最近の情勢からか高品質な野菜よりも「わけあり」の野菜がよく売れるのではないかと感じています。

他の生産者の人たちと意見交換などもして、どのようにしたらいい野菜や果物が作れるのか、作業が楽になるのかななどを日々勉強しています。

また、学校・介護施設の給食などにも出荷したり、大阪の数件の八百屋が直接家の買い出しに来たりなど販売経路も多岐に渡っています。

4. おわりに

気候変動の影響、台風や天災などで出荷を予定していた作物が毎年どうなるかわからないような時代がやってきました。数十年前と比べても気温が高くなり、同じ作物を作っていても作りにくい環境になってきています。

暑さに強い野菜や果物も考えていかないととも思っています。これからの農業は個人農家は高齢化で経営を続けていくことが難しくなっている中、廃園、廃業がどんどん増えてきています。今コロナ禍で生産資材などの物価も上がり、我が家でもこういった物が海外からの輸入に頼っているのです、どうすれば農業が続いていけるのかが課題だと思っています。これからも、国産の野菜や果物がなくならないように一つでも多くの野菜や果物を作っていきたいです。



採れたての夏野菜



きゅうりのハウス



オリジナルシール



出荷農産物の荷姿

そろそろ旅行に行きたい

かつらぎ町 地域農業士
前坂 昇 義



1. はじめに

昨今の、コロナ禍により自由に旅行ができないので、旅好きの私としては辛い日々です。旅系のYouTubeを見ては、何処かに出掛けたいムシが騒いでうずうずしています。この度、この原稿作成の機会を頂き、私が20代前半に和歌山県の海外農業研修旅行に参加した時の事を思い出したので、少し思い出にふれたいと思います。

2. 旅の思い出

今から約24年前、和歌山県の姉妹都市である、フランスのピレネーオリアンタル県ペルピニャンに行きました。東は地中海、南はスペインとの国境に面した地域です。関空からオランダのアムステルダムを経由し、スペインのバルセロナに行き、そこからバスに乗り換え、フランスに向かって3時間程度走って到着しました。初日は、ペルピニャンの県庁を表敬訪問し、翌日からはぶどう園、ワイン醸造所などを回りました。

大陸ならではの広大な乾燥した土地に、整然と並んだ垣根仕立てのぶどうの樹が広がっています。作られていたワインは、南欧でよく作られている甘いデザートワインが主で、飲み易く口当たりも良く、ホテルの夕食では毎晩良く飲み、最後は1人当たり追加料金で約3万円を支払いました。お土産用に一本頂きましたが、帰ってから何処かになくしてしまい、味はみずじまいでした。今度、フランスのピーチビネガーを見かけたら、是非一度買ってみようと思います。

大規模なもも園にも行きました。自分達が造っている様な一本一本の木が大きい立木仕立てではなく、欧米では普通の並木仕立てでした。収穫作業には大きな機械を使い、ポルトガルやスペインの季節労働

者が収穫していました。黄桃系の小ぶりなももでしたが、試食すると黄桃独特の濃厚な味わいでした。影響を受けたかどうかわかりませんが、家のもも園でも黄金桃系をつくっています。最近は害虫の被害が酷くて、あまり収量があがっていないのがつらいところです。

帰国前には首都のパリに立ち寄り、ノートルダム大聖堂や凱旋門エッフェル塔などを地下鉄で周りまわした。参加していた人がモネの睡蓮を見たいということで、一緒にオランジェリー美術館に行き、自分も絵画に少し興味を持ちました。

海外旅行はそれが初めてではなく、20歳の時にアルバイトで貯金をして、アメリカのラスベガスまでひとりさみしくツアー旅行を申し込んで行っています。あの頃は超円高で海外旅行は安く行けましたが、関空ではできたところだったので旅費が高く、少しでも旅費を安くするために夜行バスで東京まで行き、その後京成電鉄に乗り換えて成田空港から飛びました。

飛行機に乗ったのはこれが初めてで、かなり興奮して離陸した時は感動でウルウルしたものでした。初めて乗った飛行機は、大韓航空のロス行きでした。当時は座席がガラガラで、エコノミーの3列シートを独り占めすることができ、行きも帰りも寝転んで過ごせました。その後は何回も飛行機に乗っていますが、最初のフライトがあまりにも快適だったので、後々こんなに窮屈でつらいものかと思い知らされました。

ラスベガスに行ったとき、乗馬体験に少し興味あったので、半日外周コースに挑戦しました。簡単な手綱捌きと足の使い方のレクチャーだけで、いきなり馬に乗ってそのままパカパカ進んでいきました。アメリカですので、何があっても責任を取りませんみたいな誓約書にサインをさせられています。荒涼

とした大地に馬に跨っていると、まるで西部劇のワンシーンです。この経験で今も馬を飼いたいと思っていますが、現実は厳しくほぼ不可能です。

3. 最後に

さて、旅の思い出を綴りながら、最近は旅行に行けていないと嘆いています。今はコロナ禍で出かけるのも人に会うのも気を使うので、もう少し新型コロナウイルスの感染が落ち着いてからですね。農業も趣味も楽しみながら頑張っています。



作業効率と 高品質果実生産をめざして

有田市 地域農業士

上野山 和 広



1. はじめに

私が就農したのは昭和61年で、高校を卒業後18歳で就農しました。

温州みかんを中心とした果樹専作経営を行っており、柑橘の栽培に関する技術は、親と4Hクラブの活動の中から学びました。就農時は180aの栽培面積でしたが、作業効率の悪い自園を手放して平坦園を借り受けて現在の栽培面積に至っています。就農5年で傾斜園すべてに防除用スプリンクラーの整備を進め、作業効率の向上に取り組んでいます。

全国の消費者に美味しい有田みかんを提供するため日々努力しています。

2. 農業経営の特徴

私の住む有田市は、果樹王国和歌山県の北西に位置し、「水はけが良く太陽の光が多く当たる急傾斜園が多い」、「海からの暖かな潮風で気候が温暖」などの好条件に恵まれ、全国トップシェアを誇る高品質の有田みかんが生産されています。これらの条件で育った有田みかんは、海と山と太陽の恵みを受けぎゅっと濃縮した甘みが最大の特徴です。

私は樹勢維持のため葉面散布を4年前から取り組んでいます。葉面散布を始めたきっかけは干ばつに

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	130a
極早生	60a
早生	30a
普通	40a
晩柑	70a
○労働力	
家族	2人
雇用	3人

より樹勢が低下したことからでした。散布すればすぐに効果が表れるものではないですが、少しずつ効果が見えてきたように感じています。

また、近年イノシシによる被害が増加し、4年前からイノシシ柵の設置に取り組み、今年に入り全園に設置完了しました。柵により年々被害の減少が感じられるようになり、被害軽減により更なる収量増に期待したいです。

3. 今後の経営方針

生産物はすべて有田市のありだ共選に出荷しています。高品質果実を生産すると価格に反映されるため大変やりがいを感じています。今後は老木園を「ゆら早生」などの高品質品種に切り替えていき

いと考えています。また、味一みかんの出荷量を増やすため更なる栽培技術の向上に努めていきたいと考えています。

干ばつにより樹勢が弱ったことを教訓に樹勢を毎年安定して維持することに注意を払っています。まずは、①植物生長調整剤の散布はやめる、②土壌が固くならないように除草剤の散布には気を使う、③土壌分析を毎年行い、分析結果に基づいた土壌改良資材の施用を行う肥培管理に順次切り替えています。

4. おわりに

高校卒業後に就農して早37年が経過しました。平成19年に青年農業士として加入させていただき、現在地域農業士となり、たくさんの方々と知り合いになれ、農業の事やそれ以外の事等いろいろと意見交換ができ私自身成長できたと感じています。

農業は、近年の気象変動等により年々栽培が難しくなっているように感じており、また、担い手不足による後継者問題や鳥獣害問題等解決しなければならない問題は山積みです。また、新型コロナの国内発生から2年以上が経過していますが、先の見えない状況が続いています。

地域の方々と協力しながら有田の農業を守っていきたくと考えています。



防除用スプリンクラー



好条件で育った有田みかん



全園に設置したイノシシ柵

私の農業

「食べていける農業」を 後代に伝えたい

みなべ町 指導農業士

稲見好明



1. はじめに

私は和歌山県立南部高等学校を卒業後、地元JAに就職しました。その後、実家の農業を助けたいと思い、父が65歳となったことを機に退職し就農しました（当時32歳）。両親とも健在であった当初は梅を中心に水稲、ブロッコリー、キャベツ、うすいえんどう（施設）の複合経営を行っていましたが、省力化を目指して徐々に収益性の高いうめに生産を集約し、現在では梅専作にて経営を行っています。

2. 農業経営の特徴

私は「同じことを繰り返していたら進展はない」をモットーとして農業経営に取り組んできました。地元JAの梅部会の諸先輩方から教えていただいた知識や、みなべ町農業士会（現在、副会長をしています）での研修や、会員の方々との交流を経て学んだ技術や知識をもとに、常に自身の経営をアップデートすることを心がけており、父からの教え通りに経営している部分は全体の1割もありません。現在は従業員を1名常時雇用していますが、その方にも「私の経営方法はあくまでもひとつの参考事例としてとらえ、いろいろな人から意見を聞いたり、見聞を広げたりしながら、時代に合った自分なりの経営方法を確立して行ってほしい」と話しています。

上記のように、私は複合経営からうめ専作の経営へと集約し、農業経営の効率化を推進してきました。その中で設備投資にも力を入れ、大型の倉庫や選果

農業経営の概況

○作付品目と面積	
うめ	270 a
○労働力	
家族（本人）	1人
常時雇用	1人
臨時雇用（収穫時）	6人



大型倉庫



梅干し用ハウス

機、農薬散布用のスプリンクラー等の導入を進めました（現在、導入面積は所有する農地の約7割を占めます）。

今では省力化はかなり進み、熟練すれば農薬散布やかん水等の作業はもちろん、急傾斜地におけるせん定枝の片付けを除けばほぼ1人でこなすことができるまでになりました。

主力品種は「南高」で、梅干し生産をメイン（収量の8割程度）に据えており、主にJAへ出荷しています。受粉用の品種には昔から「小粒南高」を用いてきましたが、発芽が遅かったり、裂果や病害虫による被害の激しかったりする年があるため、「みなべ21」や「NK14」といった優良品種への改植を進めています。「南高」と開花期がずれるリスクを回避するため、受粉用品種は複数品種導入するようにしています。

3. 今後の経営方針

私は「1人でも経営ができる農業」を目指して品目をうめ集約し、設備投資を行いながら経営の効率化を進めてきました。今後もその方針は変えずに、スマート農業の導入なども視野に入れながら、更なる効率化に取り組んでいきたいと考えています。

また、我が家の梅も平均樹齢が約30年程度と老木化が進行しつつあります。将来、経営を後代へと気持ちよく引き継いでいくためにも、今後はメインの品種である「南高」の改植にも注力していきたいと思っています。

4. おわりに

日本一の梅産地と呼ばれるみなべ町ですが、農業人口の高齢化は例外なく進んでいます。そのような中、我々の世代の子供達が農業経営を引き継いでくれれば良いのですが、そううまくいくとも限りません。みなべ町の梅産業を持続的に発展させていくためには、身内、町内にこだわらず、若い担い手が希

望を持って就農できるよう、「食べていける農業」を次世代へと繋いでいく努力が不可欠だと思います。私は就農当時収益性の高かったために経営を集約し、コンパクトな経営を進めることで、幸いにも自分なりの「食べていける農業」を実現することができました。しかし、今後もずっと同じやり方で成功していけるとは考えていません。刻一刻と変化する時代に適応し、若い担い手が少しでも希望を持って農業を営んでいけるよう、農業士会活動を通じて将来の担い手育成に取り組んでいきたいと思っています。



選果機



梅干しの選別作業

私の農業

もっと楽に農業をしていきたい！

田辺市 指導農業士

山本由美



1. はじめに

私は、昭和60年に夫の仕事の関係で夫の実家のある田辺市に移り、両親との同居生活となり、今までと違う生活環境に戸惑うばかりでした。

子供が小さい時は、倉庫内でできる選果や出荷作業を手伝うだけでしたが、少しずつ農作業や生活にも慣れてきました。

その頃夫の実家では、うめや温州みかん、水稻、かすみそう、いちご、しそと様々な作物を栽培していました。しばらくして、夫が転勤となり、毎週末、赴任先から帰って農業をするようになり、普段は夫の両親と私が農業をすることになりました。徐々に規模を縮小し、平成15年ころからうめと温州みかんの栽培にしぼって、できる範囲で農業を続けていました。

そんな折、平成19年7月に台風4号が襲来し、畑が崩れ、スプリンクラーやモノラックが流されて、「もう農業を続けていくのは無理かな」と思いました。畑がこれ以上崩れないように、土のうを積んだり、土砂を撤去する作業が続きましたが、両親や息子も手伝ってくれて、なんとか畑を復旧させることができました。

2. 農業経営の方針と状況

齢を重ねるにつれて、少しずつですが農作業の効率化や軽減化に取り組みました。園地に園内道を整備して、作業がしやすくなるよう園地改造しました。また、収穫前にできるだけ草刈りをしなくてもいい

農業経営の概況

○作付品目と面積	
うめ	100a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用（収穫時）	1人

ように、ナギナタガヤやヘアリーベッチによる草生栽培に取り組み、草刈り作業の軽減に努めました。うめは青採り主体でしたが、できるだけ家族で作業できるように、完熟梅を収穫し一次加工しています。選果作業では、選果機に昇降機やローラーコンベアをつけて、作業が楽になるようにしました。

また、4年前に悪天候に負けないよう梅干しハウスを鉄骨化し、さらにその1年後、鉄骨ハウスに隣接して、うめを漬けるタンクを備えた作業用倉庫を建てました。

今では、浸水作業や選果、漬け梅、梅干しの一連の作業がスムーズにできるようになり、干し上がったうめをそのまま台車で倉庫に運べるようになりました。一次加工したうめは全量、田辺市内の業者に出荷しています。

家族経営なので、夫が薬剤防除や施肥、草刈り、私がうめの収穫や干し作業、樽詰め、税金の申告と、このように役割分担を行い、労力配分することを心がけています。息子も仕事が休みの時は、収穫や草刈りを手伝ってくれています。

3. 今後の経営方針

夫の定年退職前から、農作業の効率化や軽減化を考え、倉庫の建て替えや機械の導入を進めてきました。2年前に退職して、これまで他の人に貸していた農地にうめを植えました。さらに今年、遊休農地にも植える予定です。

栽培面積を増やし、家族でできる範囲で役割分担しながら、うめの収量をもっと増やしていきたいと思います。

4. おわりに

私も65歳になり、指導農業士の定年を迎える年となりました。農業士の仲間に入れていただき、特に女性部会活動では、うめの消費PR活動における出前授業や先進地研修、セミナー等、楽しい時を過ご

させていただきました。ありがとうございました。息子も仕事をしながら、農業を手伝ってくれていますが、いつか後継者になってくれたらと思います。それまで夫婦元気で、農業ができればいいなと思います。



梅干し作業ハウス



ハウスに隣接した倉庫



うめのハウス干し



干梅の樽詰め作業

農業に懸ける思い

家族と寄り添える農業を

和歌山県 和歌山地方 4Hクラブ連絡協議会

山本 敦喜



1. はじめに

私は中学生時代に不登校を経験し、家族や周りの支えがあり克服しました。同じような心の悩みを抱える親子を対象に社会復帰に向けたボランティア活動に精を出し、20歳で高校を卒業することができました。その中で培った、人との繋がりや家族の大切さを原動力にし、卒業後に就職した一般企業で、従業員を20人以上抱える店舗責任者として6年間勤めました。仕事に打ち込むことが家族のためと思い、迷い無く突き進んできた最中、大切な人が病死。その時に感じた自身の大切な人のために時間を使うことができない環境に嫌気がさし、転職を決意しました。

当時よりメディアで報道されていた、地域農業の後継者不足や人手不足など、農業の置かれている現状を知り、漠然と何か自分も携わることができればと考えていたことを思い出し、「農業なら家族と寄り添いながら自分の頑張った分だけ成果が変わる」と確信し、求人から県内のみかん農家の方にお世話になり、現在で約1年半研修させて頂いているところです。研修中に繋がった農家の方の紹介で4Hクラブに加入させて頂くことになりました。そこで出会う様々な農産物を育てている先輩農家の方の話を聞けることがとても良い刺激になっています。

2. 農業への思い・取り組み

研修先の農家の方や、地域の農家の方々が様々な理由で世話しきれなくなった、耕作放棄地を借り受

農業経営の概況（予定）

○作付品目と面積	
温州みかん	49a
レモン	19a

ける予定です。そのほとんどが中生みかんで、一部レモンが栽培されています。老木が多いため、まずは安定した収量を確保するためにせん定や園地の整地作業を中心に行っていこうと考えています。段階的に改植を行い、晩生みかんを増やしていきたいと考えていますが、既存の畑を最大限に活かす方法や、ネット販売を視野に入れた単価を上昇させるグローバルな売り方を模索するなど、工夫をしていきたいです。また、できるだけ農薬を使わずに安心安全に食べて頂ける農作物の栽培方法や技術も高めていきたいと考えています。



雑柑の収穫（研修先）

農業に懸ける想い

次の10年に向けて

紀の川市 地域農業士

中西伸弥



1. はじめに

私は27歳の時から農林大学校に2年間通いその後就農して今年で11年になりました。昨年度は、県の地域農業士に認定していただきましたので、これからも一層農業に精進していきたいと思います。

2. 農業への想い、取り組み

私は野菜を中心に栽培し、経営しています。毎年同じルーティーンで年間の作業をこなしていますが、同じ様にやっても結果が同じになるとは限らないことを日々痛感しています。

また、年々自身が年老いていく事が確実な中で、いかにして継続して営農して行けるかが今の課題です。現状維持では将来的には今のままの農業が維持できない可能性が高いと考えてるからです。農業もコロナ禍、物価高騰の影響を受け、ますます継続する事が難しい状況になって来ていると思います。

就農した当初は農業の事だけ考えていれば良いと思っていましたが、ようやく最近では世間の事や少し先を見据えた考えや情報を取り入れる事が出来て来たと思います。

栽培に関する取り組みは、化成肥料だけでなく緑肥や堆肥を積極的に使い、土やお財布に優しい栽培を心がけています。



ハチをつかった受粉

農業経営の概況

○作付品目と面積	
大玉トマト(ハウス)	30a
キャベツ	60a
たまねぎ	15a
○労働力	
家族	1人
臨時雇用	4人

前年度の失敗や改善箇所を明確にし、次年度には対処する様にしています。

私は工作が好きなので、使い勝手が悪い物の改良や、作業等をスムーズにこなせる様に、一から道具を製作して楽しんでいます。農業はまだまだ不便で非効率な部分が沢山有ると思うので、これも日々改善して収益を上げていくことにやりがいを感じていきたいです。



自作した作業車

農業に懸ける想い

ぶどう観光農園への想い

かつらぎ町 地域農業士
下垣内 泰 貴



1. はじめに

かつらぎ町御所地区の「御所観光組合」では、毎年8～9月頃、御所の美味しいぶどうを求める観光客で賑わっています。父は御所でも早くからぶどう栽培に取り組み、今から約38年前の昭和59年にぶどう「ピオーネ」の観光農園を立ち上げました。昭和61年には、御所のぶどう農家の全員が参加して「御所観光組合」を設立、父も御所の仲間と観光農園に取り組みました。その父も8年前に病気となり、私はそれをきっかけとして勤めていた仕事をやめ、平成26年4月に就農しました。私も父が作ってきた、御所の美味しいぶどうを作るため、毎日頑張っています。

2. 農業への想い・取り組み

ぶどう栽培のこだわりは、除草剤を使わない草生栽培と堆肥による土づくりです。元来ぶどうは根が浅く、除草剤を用いると根が傷みます。堆肥で土を作り、樹の基本である根をしっかりと育てます。手間はかかりますが、木を健全に育てることにより、美味しいぶどうを安定的に生産できます。

また、観光農園へ来られるお客様、一人一人を大切にすることを心掛けています。おかげで父の頃からのお客様もご縁が続いていますし、私の代になってからの新しいお客様もご家族でリピーターとなっていただき、少しずつお客様が増えています。ぶどう狩りをされる方、購入、配送の方を含み、当園のお客様は約1,500～1,600人/年です。

観光農園はお客様相手の商売ですので、この2年間、新型コロナウイルス感染症の対策に苦慮しました。「御所観光組合」では、観光農園での食べ放題を中止とし、来客に影響が出るのではないかと心配しましたが、お客様のご理解もあり、購入のお客様が増えました。来客数はやや減りましたが、電話注

農業経営の概況

○作付品目と面積		
ぶどう	ピオーネ	70a
かき	刀根早生	20a
	平核無	40a
キウイ		12a
○労働力		
家族		2人
季節雇用		2～5人

文での配送へ切り替える方も多く、観光農園への影響は少なかったです。また、令和3年度は町が配送料の補助（600円/箱）を行っていただき、大変ありがたかったです。

さて、今後の取り組みとしては、「シャインマスカット」の観光農園を考えています。現在は試験栽培を行っている段階ですが、店舗での人気も高く、皮ごと食べられて味が良く、現行の「ピオーネ」よりも作りやすい、観光農園に向けた品種と考えています。収穫時期が「ピオーネ」よりもやや遅いため、集客時期の延長も期待できます。御所の新しい人気商品にしたいと考えています。



農業に懸ける想い

作りたいみかんを作る

有田川町
高岡 佑也



1. はじめに

私の両親は農家ではなく、私も他産業に従事していました。しかし、祖父はみかんを少し作っており、その祖父が亡くなったため、親がみかん畑を相続することとなりました。

折角のみかん畑を手放すのではなく、なんとか活用したいと思い、農業が嫌いではなかった私が思い切って祖父の後を継ぐことを決意しました。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	65 a
○労働力	
本人	1人
臨時雇用	2人

2. 農業への想い・取り組み

私の経営は、祖父から受け継いだ35 aのみかん畑から始まりました。規模拡大を目標に農業次世代人材投資資金の経営開始型の支援を受けながら営農を続けています。

タイトルの「作りたいみかんを作る」とは、できたみかんではなく、人為的にコントロールしたみかん作りをしたいとの思いです。

そのために、せん定の名手と言われる方々に付いて、せん定への理解を深めたり、特別な肥料成分の資材を使って植物の生育を調整しています。適期に何度にも分けて与えることで樹や果実の成長・成熟を調整しており、これで満足できる果実を作ることにより一歩近づきました。

これからの課題は販売を拡大していくことです。今は、インターネットを使った直接販売の準備や特別な資材を利用していることを理解してくれる方達への販売を進めています。

また、当初から考えていた6次化産業化への取り組みを実現するためには今より規模を拡大する必要があり、その具体策を考えているところです。



農業に懸ける想い

ミニトマトの栽培をはじめて！

日高川町 地域農業士

伊 奈 稔 勝



1. はじめに

私は、大学進学を経て東京の企業に就職し、東京で20年間、生活を続けていました。

結婚をして、子供も生まれるなかで、子供の教育環境や両親のこと、また、自分たちの老後のことを考え、祖父が農家だったこともあり、2014年にUターンして就農することを決意しました。

当初は露地のナス栽培を行っていましたが、うすいえんどうの栽培を経て、2016年からミニトマトの栽培を始めました。

ミニトマトの栽培を始めるにあたっては、ハウスを建てるところからのスタートだったので、大変な思いをしましたが、その時に農家の先輩方や仲間たちに色々と助けて頂きました。今でも大変感謝しております。

2. 農業への想い・取り組み

ミニトマトを始めて今年で7年目となります。4年前からは、JA紀州ミニトマト部会王糖姫部に入り、ブランドミニトマト「王糖姫」の生産に取り組んでいます。「王糖姫」の生産には、厳しい栽培管理や品質管理を求められますが、何とか諸先輩方にくらいついて、栽培に頑張っています。今後も栽培技術の研鑽を重ね、より良いミニトマトを作り続けていきたいと思っています。また、ハウスの環境制御などのスマート農業にも興味があるので、この分野の勉強も行っていきたいと思っています。

今後は、ハウスの環境制御装置などの新しい技術を導入し、栽培管理の省力化を進めていきたいと考えています。

私は、このようなミニトマト栽培を行うことで、これから農業を「ゼロ」から始める若い人たちの模範になれるように頑張っていきたいと思っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ミニトマト（施設）	16a
温州みかん（露地）	57a
○労働力	
家族	2人



ミニトマト栽培ハウス



ミニトマトの栽培状況

農業に懸ける想い

新しい事への挑戦！！

田辺市 青年農業士
鈴木 惣志郎



1. はじめに

私は高校卒業後、千葉県にある大学の園芸別科に進学し、2年間全国の果樹、野菜、花き農家の後継者と一緒に切磋琢磨し、農業について勉強してきました。園芸別科卒業後は20歳で実家の農業に従事し、現在18年目に突入しています。

2. 農業経営への想い・取り組み

現在、我が家の経営形態は、梅、柑橘を中心に水稲も栽培しています。私が就農した2004年頃は徐々に梅の価格に陰りが見え始めた時期で、父と経営方針の転換に迫られた時期でもありました。私自身、就農したばかりで、右も左も分からない状況の中、出した答えが梅の収入に依存しない経営方針の転換で、柑橘類の直販及び直売所出荷に取り組みました。柑橘貯蔵用冷蔵庫を導入し、不知火を少しでも木熟で収穫して貯蔵したいと考え、不知火の軸に綿を巻いて袋掛けを行いました。これにより風雨から守り、品質の良い不知火を貯蔵する事が出来ました。

当時、西牟婁4Hクラブに所属していた事もあり、同じ経営形態であった諸先輩方からいろいろお聞きし、これなら自分でも安定した収入が得られると考え、試行錯誤しながら、経験を積むことで、次第に売り上げを伸ばすことができました。あの当時と比

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	114 a
柑橘類	246 a
水稲	34 a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	3人

較すると、梅の価格も回復傾向になり、経営も安定してきましたが、まだまだ課題は山積みです。

今後の課題としては、梅、柑橘の品質向上及び老木園の改植、両親の高齢化による労力の低下に対する労力の確保等が挙げられます。課題を解決するためには、農業士の先輩方にいろいろアドバイス等いただき、積極的に設備投資等を行っていききたいと思います。



柑橘貯蔵用冷蔵庫



綿巻き、袋掛け不知火

県農林大学校学生です。

～農林大学校1年生の自己紹介&近況報告～

農学部 園芸学科



私は大阪府出身で、大阪の農芸高校を卒業しました。現在のところ明確な将来目標はまだありませんが、技術員等の現場作業や営農指導員等の仕事に興味があり、農業関係の仕事に携わりたいと考えています。農林大学校では、高校の時に培った技術や知識を更に深め、資格取得にも挑戦し、将来役立つスキルをたくさん身に付けることができたらと思います。

自分は勉強がとても苦手ですが、農業は、自分の興味のあることなので一生懸命頑張っていきたいと思います。



私は紀の川市出身で、高校は紀北農芸高校に通っていました。家は水稲とミカンを栽培している兼業農家です。

農林大学校に入学した理由は、家で農作業を手伝っており、高校で学んだ知識や技術をより深く学びたいと思ったからです。

将来の夢は、まだ具体的に決まっています。

学校では、いろいろな資格を取得したいと思っています。特に、毒劇物と園芸技術員の資格を頑張りたいです。



農林大学校1年の上藪一悠です。出身は大阪府太子町で、高校は大阪農芸高校です。

私は果実が好きで将来は自分で育てたいと思い、また、高校で学んだ加工の知識や技術を活かせるように、フルーツ王国である和歌山の農林大学校に入学しました。

将来の夢は、多品目の果樹を栽培する農家になることです。親戚で元々農家をしていた方がいるので、その農地を受け継げたらと考えています。

学校で頑張りたいことは、資格取得と果樹に関する技術や知識をより多く持ちたいです。それで、和歌山や大阪の農業を盛り上げたいです。

私は大阪府大阪市出身の河村宗弥です。

まず、農林大学校に入学したかということ、高校で進学先を探していたのが発端です。農業大学校に進学したいと思い、範囲的には近畿地方の中で考えていました。コロナ禍ということで大阪と和歌山の2つに絞りました。どちらもオープンキャンパスに参加しましたが、大阪は研究がメインで、和歌山は実習がメインだったので和歌山に決めました。将来的には大阪か和歌山で就職したいと思っています。

学校で頑張りたいことは、農業機械や農業の技術、技能を磨いていきたいです。また、資格の取得や野菜の病害虫の知識もつけておきたいです。

農林大学校の先生は面白くて、本格的に農業を学べるので良いと思います。学校までの坂が少し不便ですが、比較的自由な時間も多いので良いと思います。



河村宗弥

.....



久世喬生

私は有田川町出身の久世喬生です。

私の祖父がミカン農家で、私も小さい頃から手伝いをしていました。そのうちにもっと農業について学びたいと思ったので、農業系の高校に入りました。農業について学ぶうちにもっと詳しく学びたいと思い、農林大学校に進学しました。

学校では果樹コースに入り、果樹について色々なことを学び、将来は実家の農業を継ぎたいと思っています。なので、この2年間は授業や実習を一生懸命取り組み、卒業する時に十分な知識が身につくように頑張りたいです。

.....

私は、広川町出身の久保田隼登です。

高校は有田中央高校に通っていましたが、高校では花き、野菜、果樹、加工と幅広い分野で学んできました。そのため、ミカンはもちろんのこと、他の果樹の知識を専門的に学びたいと思い農林大学校に入学しました。

学校では、高校で使ったことがない機械がたくさんあり、どのような場面でこれらの機械を使うのか学びたいです。また、資格を取得できるように2年間頑張っていきたいです。



久保田隼登

和歌山県農林大学校1年生の倉園です。出身は大阪府阪南市です。自分がなぜこの学校に進学したかという、大阪の農芸高校で色々と学んだことを活かしたいという思いと、周りの人たちと何か違ったことをしたいと思いこの学校に入学しました。

卒業後は、少しでも農業に関連のある会社に就職したいと考えています。また、退職後は身内の農家を継ごうと思います。

この学校で頑張りたいことは、自分の中で何か一つできることを伸ばし、磨いていこうと思います。



倉園 侑人

～和歌山県 人権政策課からのお知らせ～

インターネット上の誹謗中傷は許されません！

インターネットは私たちの生活を便利で豊かなものにしてくれます。しかし使い方を誤ると人の心を傷つけてしまう凶器にもなります。近年、インターネット（特にSNS）上の誹謗中傷が深刻化していることから、本年6月には侮辱罪が厳罰化されました。

インターネットの世界も現実社会もルールは同じです。画面の向こう側にいる相手のことを想像し、思いやりの心を持ってインターネットを利用しましょう。

11月11日～12月10日は、人権を考える強調月間です。 (11月1日～30日は、同和運動推進月間です。)

和歌山県では、「和歌山県人権施策基本方針」に基づき、すべての人の人権が尊重される社会づくりを進めるとともに、「和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例」に基づき、部落差別のない社会を実現するため、教育・啓発の推進や相談体制の充実、差別事件の対応などの取組を進めています。

県民の皆さんも、これらの趣旨をご理解いただき、差別や誹謗中傷は許されないものであるといった認識のもと、すべての県民の人権が尊重される豊かな社会を実現しましょう。

【人権全般・同和問題（部落差別）の相談窓口】

- ・ 人権ホットライン ☎073-421-7830
(公財) 和歌山県人権啓発センター
 - ・ 和歌山県人権政策課 ☎073-441-2563
- ※各振興局総務県民課でも実施しています。

【お問い合わせ先】

和歌山県人権政策課
☎073-441-2563

令和5年度 和歌山県農林大学校農学部 学生募集！

和歌山県の農業に活力を与え、地域リーダーとして活躍できる人材を育成する農林大学校。
令和5年度の農学部の入学試験を下記のとおり行います。



※) 詳細は募集要項で必ずご確認ください。

学科	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期） ※一般入学試験（前期）で 定員を満たした場合は実施しません。
入学定員	園芸学科：30名	アグリビジネス学科：10名
修業期間	2年	
試験日	令和4年11月29日（火）	令和5年3月2日（木）
受験資格	高等学校を卒業、または令和5年3月までに高等学校を卒業見込みの者 （詳細は下記まで問い合わせて下さい）	
試験科目	1 筆記試験 ①必須科目 小論文、数学Ⅰ、国語総合 ②選択科目 生物基礎、化学基礎、農業と環境の3科目から1科目を選択 2 面接試験 農業、社会常識 など	
出願期間	令和4年11月10日（木） ～11月17日（木）	令和5年2月8日（水） ～2月15日（水）
合格発表	令和4年12月6日（火）	令和5年3月7日（火）
試験場所	農林大学校 農学部	
提出書類	ア 入学願書（本校指定用紙 別紙1-2） ※ <u>県外に住所を有する者は和歌山県農林大学校志望調書（本校指定用紙 別紙2）も提出のこと</u> イ 最終学校の卒業証明書 ウ 最終学校の調査書、または成績証明書 エ 健康診断書（本校指定用紙 別紙4） オ 履歴書（市販のもの） カ 写真2枚（うち1枚は「ア入学願書」へ貼り付けること） キ 返信用封筒2枚（宛先を明記し、封筒1枚につき414円分の切手を貼り付け） ※令和5年3月卒業見込みの者は、イ、オは不要	

問い合わせ先

和歌山県農林大学校農学部

〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降 422

TEL：0736-22-2203 FAX：0736-22-7402

ホームページアドレス

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/nourindaigaku/index.html>

（募集要項はホームページからダウンロードできます）



HPへアクセス！

試験研究レポート

REPORT

タバココナジラミに効果がある薬剤の検討

農業試験場 主任研究員 岡本 崇

1. はじめに

長期栽培ミニトマトの産地である日高地域では、トマト黄化葉巻病の発生が問題となっており、2022年6月の調査では発生ほ場率が37%と4割近いほ場で発生がみられています。トマト黄化葉巻病はタバココナジラミによって媒介されることから、本虫を栽培初期からほ場内に“入れない”、ほ場内外で“増やさない”、ほ場から“出さない”ことが重要となっています。しかし、ここ2年の発生ほ場率、寄生葉率ともに高い状況が続いています（図1）。

日高地域のミニトマトほ場では、一部のネオニコチノイド剤、合成ピレスロイド剤等の効果が低いタバココナジラミバイオタイプQが優占しています。有効な薬剤による栽培初期からの“増やさない”防除が重要となるため、日高地域から採集したバイオタイプQ個体群に対する薬剤の効果を検討しましたので報告します。

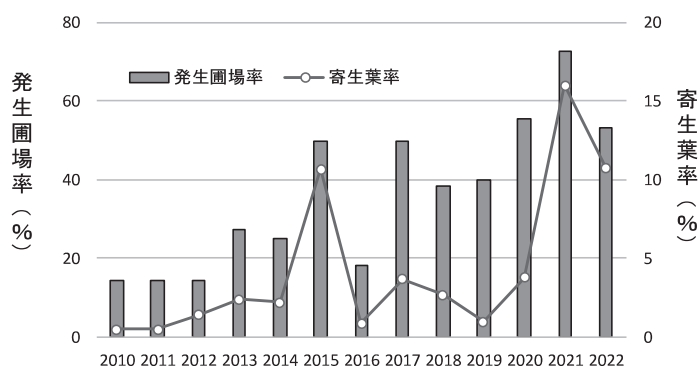


図1 タバココナジラミの発生状況 (5月)



タバココナジラミ成虫

2. 試験研究の内容・結果等

(1) 幼虫に対する薬剤の効果

2022年4月に採集したタバココナジラミ個体群の2～3齢幼虫に対する各種薬剤の効果を調べました（表1）。

供試薬剤	IRACコード	希釈倍率	補正死虫率 (%)				
			御坊市 楠井	印南町 西ノ地①	印南町 西ノ地②	印南町 島田	印南町 宮ノ前
モスピラン顆粒水溶剤	4 A	2,000	43.2 ×	-	-	-	-
アルバリン顆粒水溶剤	4 A	2,000	4.9 ×	1.1 ×	-	-	-
トランスフォームフロアブル	4 C	2,000	24.8 ×	25.9 ×	5.4 ×	4.9 ×	1.5 ×
ディアナSC	5	2,500	88.4 ○	93.6 ◎	68.2 △	90.3 ◎	47.9 ×
アニキ乳剤	6	1,000	84.7 ○	95.8 ◎	91.3 ◎	-	-
コロマイト乳剤	6	1,500	91.8 ◎	-	87.6 ○	-	-
チェス顆粒水和剤	9 B	5,000	0 ×	-	0.1 ×	0 ×	3.7 ×
コルト顆粒水和剤	9 B	4,000	35.2 ×	37.7 ×	25.2 ×	1.7 ×	17.0 ×
モベントフロアブル	23	2,000	6.1 ×	38.3 ×	37.5 ×	9.5 ×	0.9 ×
ウララDF	29	2,000	45.6 ×	14.6 ×	3.1 ×	49.1 ×	8.3 ×
グレーシア乳剤	30	2,000	66.6 △	88.9 ○	84.0 ○	97.0 ◎	84.9 ○

補正死虫率が◎90.0%以上、○70.0～89.9%、△50.0～69.9%、×49.9%以下
IRACコードが同じ薬剤を連用した場合、作用部位が同一なので抵抗性が発達するリスクがあります。

ディアナSC、アニキ乳剤、コロマイト乳剤、グレーシア乳剤は効果が高いと考えられましたが、ほ場により効果に差があることがわかりました。

(2) 成虫に対する薬剤の効果

印南町の2個体群の成虫に対する各種薬剤の効果調べました。宮ノ前個体群については産卵数と産卵された卵のふ化への影響（殺卵率）も調べました（表2）。

表2 タバココナジラミの成虫に対する各種薬剤の効果

供試薬剤	IRAC コード	希釈倍率	印南町西ノ地		印南町宮ノ前	
			補正死虫 率(%)	補正死虫 率(%)	産卵数 (個/頭)	補正殺卵 率(%)
モスピラン顆粒水溶剤	4 A	2,000	100 ◎	100 ◎	0.5	75.9
トランスフォームフロアブル	4 C	2,000	96.7 ◎	87.5 ○	0.2	35.9
ディアナSC	5	2,500	96.2 ◎	86.8 ○	3.2	0.0
アニキ乳剤	6	1,000	85.7 ○	84.8 ○	0.6	30.1
コロマイト乳剤	6	1,500	39.0 ×	3.4 ×	1.7	66.4
チェス顆粒水和剤	9 B	5,000	37.2 ×	54.3 △	0.5	19.4
コルト顆粒水和剤	9 B	4,000	96.5 ◎	61.5 △	0.5	14.6
ウララDF	29	2,000	19.8 ×	19.6 ×	3.2	35.0
グレーシア乳剤	30	2,000	62.2 △	80.2 ○	0.8	0.0
無処理					6.7	

補正死虫率が◎90.0%以上、○70.0～89.9%、△50.0～69.9%、×49.9%以下
IRACコードが同じ薬剤を連用した場合、作用部位が同一なので抵抗性が発達するリスクがあります。

モスピラン顆粒水溶剤、トランスフォームフロアブル、ディアナSC、アニキ乳剤、コルト顆粒水和剤、グレーシア乳剤は効果があると考えられました。産卵数はすべての薬剤で減少し、無処理と比べて50%以下になりました。しかし、産卵された卵の殺卵率はモスピラン顆粒水溶剤とコロマイト乳剤以外は低い結果となりました。

3. まとめ

気温が高い栽培初期には、ほ場に侵入するウイルスを持ったタバココナジラミを防除する必要があるため、成虫に効果が高い薬剤を主体に防除を行ってください。気温が下がるとほ場外からの侵入は減るため、ほ場内での増殖を減らすことを目的に幼虫にも効果が高い薬剤を選定してください。また、同一系統（IRACコード）の薬剤の連続使用は抵抗性を発達させるので、できるだけ違う系統の薬剤を使用するよう心掛けてください。

今回は、タバココナジラミを増やさないための薬剤の研究成果について報告しましたが、ほ場に“入れない”ことが最も重要になるため施設の見回りを実施してください。具体的には、①施設の開口部に0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置し、隙間をなくしてください。②ほ場周辺の雑草、野良ばえトマトは作付け前に除去してください（特に、出入口には何も生やさないように管理する）。このような対策と薬剤防除を組み合わせ、地域ぐるみでタバココナジラミの防除を行い、トマト黄化葉巻病の発生をなくすよう心掛けてください。



出入口付近の雑草、野良ばえトマト

試験研究レポート

REPORT

かき「紀州てまり」のへたすき果発生軽減技術および接ぎ木更新時の省力樹形開発

果樹試験場かき・もも研究所 主任研究員 有田 慎

1. はじめに

かき・もも研究所では完全甘柿品種「紀州てまり」を育成し、平成31年4月に品種登録しました。本品種は生産者の関心も高く、かきの新たなブランド商材として早期の産地化が期待されています。しかし、本品種の早期産地化を図るうえで、商品性を損なうへたすき果が1割程度発生していることや、接ぎ木更新後に樹高が高くなり管理作業に時間がかかることが問題になります。そこで、「紀州てまり」のへたすき果対策技術および、接ぎ木更新時の省力樹形を開発しました。

2. へたすき果発生軽減技術

「紀州てまり」は果実等級(果実重)が大きくなるほど、へたすき程度が大きくなります(写真1)。そこで、最適な着果管理法として、葉果比と摘果時期を検討した結果、葉果比15ではへたすきの発生が抑制されるものの、樹勢が低下する場合があるため、葉果比25程度で、8月上旬に摘果を行うことが適切と考えられました(図1、2、写真2)。また、令和3年に所内と現地圃場において実証試験を行った結果、商品性を損なうへたすき果の割合(程度2、3)は平均で4.8%となり(図3)、果実階級は2L~4L中心となりました(データ省略)。

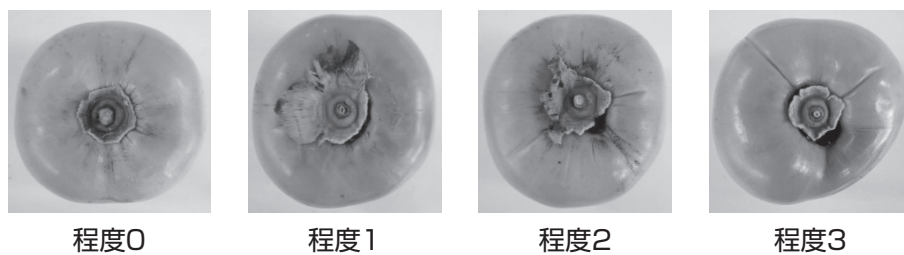


写真1 へたすき程度

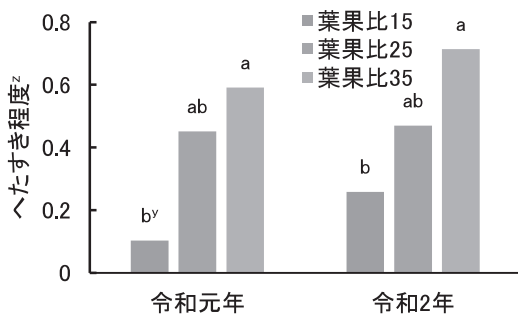


図1 葉果比がへたすき程度に及ぼす影響

z: 全調査果実のへたすき程度を平均して算出

y: Tukeyの多重比較により異符号間には5%水準で有意差あり

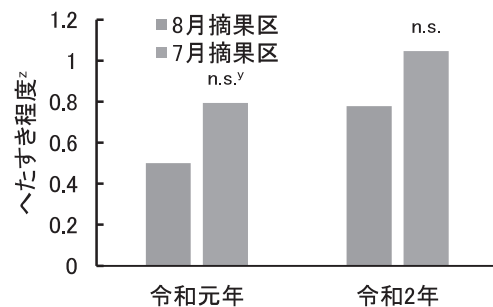


図2 摘果時期がへたすき程度に及ぼす影響

z: 全調査果実のへたすき程度を平均して算出

y: t検定により有意差が無いものをn.s.とした

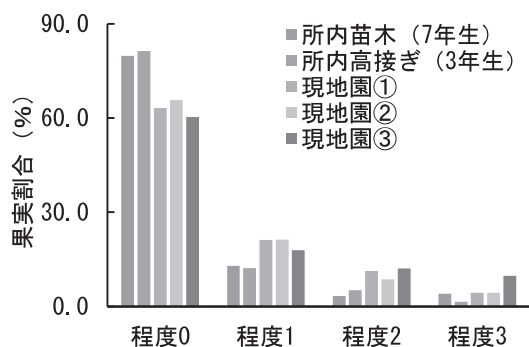


図3 実証試験におけるへたすき果発生割合 (令和3年)



写真2 7年生「紀州てまり」
(左：葉果比25、右：葉果比15で3年間管理)

3. 接ぎ木更新時の省力樹形

主枝、亜主枝まで切り下げて接ぎ木を行う省力樹形では慣行樹形よりも樹高を低く管理することができます(図4、写真3)。省力樹形では、果実の収量がやや少なく推移しますが、作業時間(摘蕾、摘果、収穫時間)は慣行樹形よりも短く、脚立を使用せず管理できるため省力化が可能です(図4、5)。



写真3 省力樹形 (接ぎ木2年目, 令和2年)

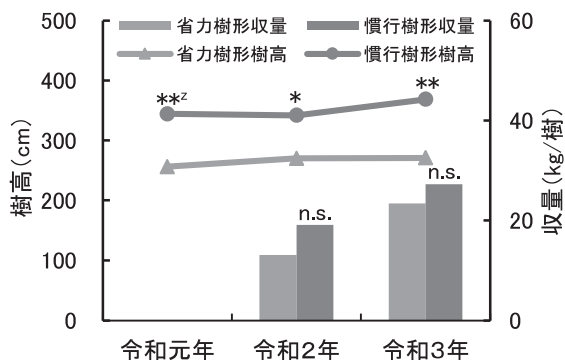


図4 省力樹形が樹高および収量に及ぼす影響

z : t検定により有意差が無いものをn.s.、5%水準で有意差があるものを*、1%水準で有意差があるものを**とした

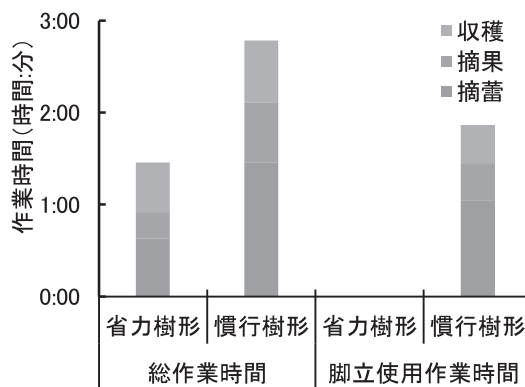


図5 収量10kgあたりの作業時間 (令和3年)

4. まとめ

最適な着果管理法として、葉果比は25程度(中庸な樹勢の樹では2枝に1果程度)、摘果は他の品種の摘果が終わった後、8月に入ってから行うことで、へたすきの発生を軽減することができます。また、接ぎ木更新時に主枝、亜主枝まで切り下げて接ぎ木を行うことで、省力的に管理することができます。ただし、接ぎ木箇所が少なく、枝折れなどが発生しやすくなるため、添え木や支柱への誘引及び、枝幹害虫の防除に努めます。

「紀州てまり栽培マニュアル～②へたすき果発生軽減技術および接ぎ木更新時の省力樹形～」を令和4年3月に発行しました。必要な方は当研究所あるいは最寄りの振興局農業水産振興課までお問い合わせください。

試験研究レポート

REPORT

和歌山県産霜降り豚肉の改良技術の開発

畜産試験場 主査研究員 宮本 泰成

1. はじめに

豚の発育を妨げずに筋肉内脂肪含量を増加させる「アミノ酸比率法（以下LPR法）」技術を近畿大学との共同研究で開発しました。また脂肪酸の一種であるオレイン酸を多く含む豚肉は脂の口どけや風味がよくなるといった報告があります。そこで、オレイン酸を多く含む本県特産品の山椒の種子をLPR法飼料に添加して肥育することでLPR法の改良を試み、よりよい霜降り豚肉の生産を目指しました。

2. 試験研究の内容・結果等

1. LPR法飼料で肥育した豚肉とLPR法飼料に3%山椒種子を添加し肥育した豚肉を、一般消費者36名を対象にゆで調理で消費者型官能評価を行い、比較したところ、「脂肪が口に残る」「かたい」という項目で3%添加の豚肉を選んだ人が少なくなりました（表1）。このことから、LPR法飼料に山椒の種子を添加することで、脂肪の口どけが良くやわらかい豚肉を生産することができる可能性があることがわかりました。
2. LPR法飼料に1%および3%の割合で山椒種子を添加し豚を肥育した結果、発育に悪影響を及ぼさないことがわかりました（図2）。
3. 豚肉の霜降りの目安であるロース芯の筋肉内脂肪含量は、1%および3%添加による差はみられませんでした。1%の添加では平均値の数値がやや高くなりました（図3）。

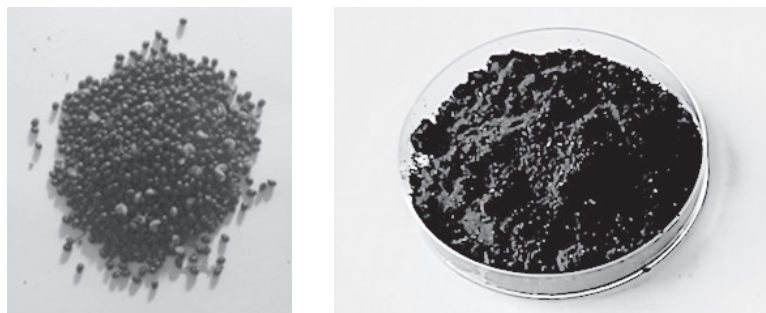


図1 山椒の種子（左）と破碎した山椒の種子（右）

表1 LPR法飼料への3%山椒種子添加が豚肉の消費者型官能評価に及ぼす影響

	LPR法飼料	LPR法飼料 + 3%山椒種子
脂肪が口に残る	19 ^a	8 ^b
かたい	12 ^a	4 ^b

（注：異符号間に5%水準で有意差あり）

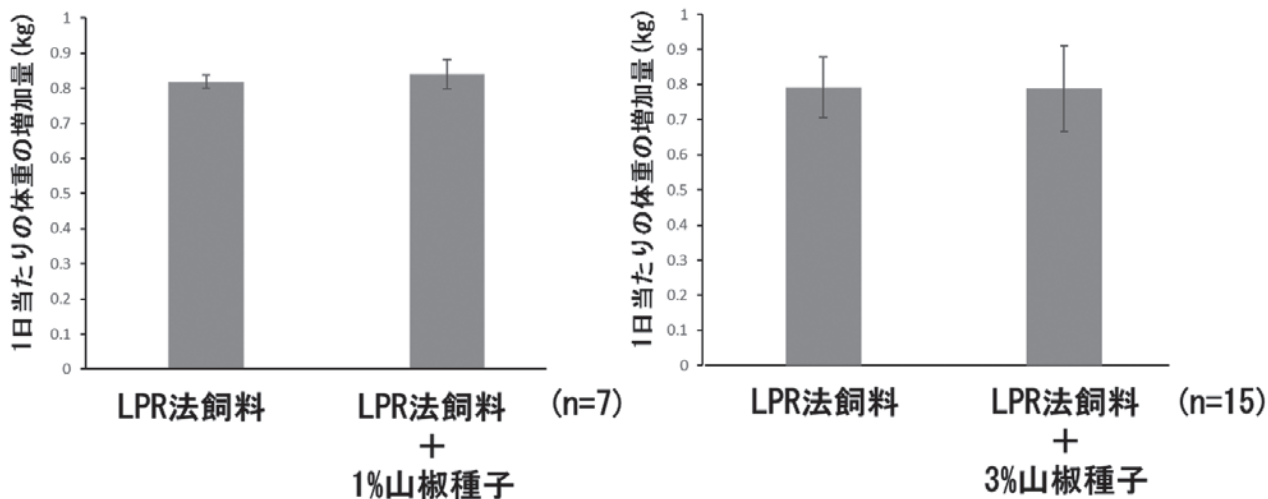


図2 LPR法飼料への1%および3%割合の山椒種子添加が1日当たりの体重の増加量に及ぼす影響

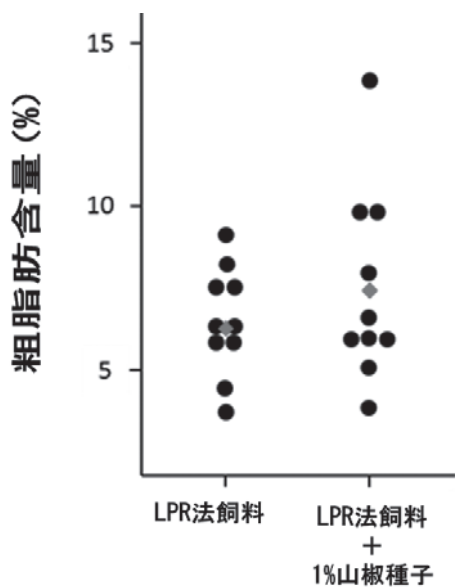


図3 LPR法飼料への1%山椒種子添加による豚肉の粗脂肪含量に及ぼす影響
(注：◆は平均値、n=10)

3. まとめ

1. LPR法飼料に山椒種子を1～3%割合で添加すると、豚の発育を阻害することなく、脂の口どけがよ
く軟らかい豚肉の生産が期待できます。
2. 山椒種子の添加割合が多すぎると嗜好性が悪くなるので、1～3%の割合での添加が目安となります。

普及活動レポート

REPORT

次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト ～新規就農者の確保とサポート～

海草振興局 農業水産振興課

1. はじめに

「貯蔵みかん」の産地である海南市下津地域は、平成31年2月「下津蔵出しみかんシステム」として日本農業遺産に認定されました。近年はみかんの価格も安定し産地にとっては追い風が吹いています。

海草振興局では下津地域の貯蔵みかん産地を活性化させるため、普及組織の重点課題として「新規就農者」「新品種」「省力化」「農地」をキーワードに令和2年度から3年間のプロジェクトに取り組んでいるところです。ここでは新規就農者の確保およびサポート体制について報告します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

近年、農家の子弟でもなく農業にゆかりのなかった人たちも、農業を志し、農家として立ち立つ事例が増えています。これらの人たちを経済的に支援すべく国も県も市町村も補助金を出しています。

しかしながら、基盤も技術ももたないままでは、農家としては生計が立てられず途中で挫折する事例も全国的には多くなっています。

(1) 新規就農希望者の支援

下津町で農業をしたいという相談も増えてきました。これらの人たちをスムーズに産地に受け入れるため、「産地受入協議会」の設立に取り組んでいます。

新規参入者が直面する課題は、技術的に支援してもらえる人が身近にいないことです。まず、就農前に基本技術を習得し、経営開始後もサポートを受けられる状況であることが望まれます。この体制を築くには産地の農家が就農希望者を研修で受け入れ、就農後も相談を受ける状況にすることが、新規就農者の定着にもつながると考えています。

産地受入協議会の設立準備

現在、関係者で協議会の設立に向けて調整を進めており、体制が整えば新規に下津町でみかんを作りたい、農業をしたいという人を就農前から一貫してサポートしていけるものと考えています。



協議会設立の検討会

(2) 就農後の支援

○新規就農者を集めた基礎研修会の開催

振興局では、新規参入者も含めた就農間もない農業者を対象に、農業の基礎を学ぶとともに就農者同士の交流を図るべく、年6回程度の研修を計画し、開催しています。

内容は農業の基本である土壌肥料等に関する研修や、農業簿記、年金等も含めた研修となっています。

○「匠の伝道師」とのマッチング

県では、優れた農業技術を次世代に伝承することを目的として、卓越した栽培技術をもつ農業者を「匠の伝道師」として認定しています。

令和3年度に下津町のみかん農家の橋詰孝氏が認定を受けて活動いただいています。新規就農者にも門戸を開き、みかん栽培の基本から研修してもらっています。新たに始めた人たちは固定観念がなく素直に聞き入れているようです。

匠の研修を受けた方の中には、個々で指導を仰ぎに訪ねるケースもでてきており、技術の習得とともに、匠が目標になり志しも高くなっています。



匠の伝道師による研修

(3) 未来の農業者に

下津町農業士会では、地元の中学生に、出前授業を行い日本農業遺産に認定されている産地のことを伝える機会を設けています。みかんを試食したり、農業を職業にする人を増やすには？といったテーマでグループ討議をしてもらいました。農家自身が産地の魅力を伝えることで地域の若者が農業に興味を持つ機会になればと考えています。



中学生への出前授業

3. 今後の取り組み

いずれの産地も後継者不足が進んでおり、産地を守るためには新規就農者の確保は最重要課題です。新たに農業を志す者を確保するとともに、就農した後定着するためには経営の安定化が課題となります。就農者が成功できるよう各種支援を継続して行っていきます。

また「新品種」「省力化」「農地」に係る課題もあり、これらも併せて取り組んでいきます。

(参考) 海南市の新規就農者の推移

	2017年	2018年	2019年	2020年
新規学卒	0	0	1	1
Uターン	2	5	2	1
新規参入	3	0	1	4
雇用就農	0	0	0	0
合計	5	5	4	6

普及活動レポート

REPORT

那賀地方における担い手の育成と確保について

那賀振興局 農業水産振興課

1. はじめに

那賀地域は、古くから京阪神に広く浸透している「あら川の桃」といった果樹に止まらず、近年メディアにも取り上げられている県オリジナル品種のいちご「まりひめ」といった野菜を始め、多種多様な農作物が生産できる地域です。

また、新たに農業を始めたり、新規品目へのチャレンジや有機農業といった「環境にやさしい農業」など新しいことに関心を持つ人が多い地域でもあります。

その一方、当地方でも農業に携わる担い手の高齢化や後継者不足、それに伴う耕作放棄地の増加など、生産・労力基盤の減退といった問題に直面しており、いかに担い手の確保と育成を行っていくかがカギとなっています。

そこで振興局では、令和3年度から普及計画の一般課題として「担い手の育成と確保」を設定し、受入協議会設立・運営指導支援や受け入れ基盤の整備を通じた新規就農者の定着に向けた体制づくりを支援しています。

また、各種研修会を通じて、新規に就農した者に対する技術の習得や仲間づくりを支援しています。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) 受入協議会設立・運営指導支援

令和3年6月、新規就農者の定着に向け地域が一体となって就農相談から定着までをトータルでサポートする「紀の川市新規就農者受入協議会（以下「協議会」という）」*が設立されました（構成組織：紀の川市、紀の川市農業委員会、紀の川市農業士会、紀の里農業協同組合、紀ノ川農業協同組合）。

また、令和4年3月には、本協議会にJA 紀の里あら川の桃部会トレーニングファーム、紀ノ川農協トレーニングファーム部会「ふたば塾」が参画、さらに6月には本協議会に紀の川アグリカレッジが新たに参画し、これにより研修内容が充実するとともに、新規就農者の受入体制が強化されました。研修生は受入農家での研修に加え、協議会主催の合同研



「紀の川アグリカレッジ」開講式

修会などを通じた交流を図ることで、互いに切磋琢磨しながら就農準備を進めています。

特に「紀の川アグリカレッジ」については、今年度から地域の特産物であるいちごでスタートしたことから、振興局では関係機関とともに定期的に研修受入先を巡回し、研修状況を確認することで就農に向けての疑問の解決や不安の解消に努めています。

また座学では、振興局とJA紀の里の職員がそれぞれ講師役を務めており、育苗や本ぼの準備など、いちごの栽培管理に関する講義を行っています。研修生からは積極的に質問が出され、関係者と研修生相互の意見交換の場にもなっています。



「紀の川アグリカレッジ」での研修

(2) 新規就農者の定着とステップアップに向けた支援

振興局では過去5年間に県が把握した就農者に対し、技術習得や仲間づくりを目的としたアグリビギナー研修を行っており、令和3年12月には県果樹試験場と（一社）農業会議からそれぞれ職員を招いて研修会を実施しました。

また、就農以降の状況把握や各種支援施策等についてアンケート調査、ヒアリングを行ったところ、農業機械や倉庫のリース、マッチングの要望が寄せられたので、今後、検討していきたいと考えています。

3. 今後の取り組み

新規就農者の受入体制は、この1、2年で協議会の設立、及び協議会に参画する団体や研修機関が増加によって、多様なニーズに対応できるよう充実しました。今後も、協議会を中心として関係機関が連携し、適切な情報や技術習得・研修機会の提供とともに、新規就農者がスムーズに地域に溶け込めるよう支援します。

また、新規就農に向けた支援だけでなく、就農後のフォローアップも含め、経営安定・ステップアップを支援していきたいと考えています。



アグリビギナー研修会

クビアカツヤカミキリの被害拡大防止への取り組み

伊都振興局 農業水産振興課

1. はじめに

クビアカツヤカミキリの成虫が平成29年7月に県内で初めて発見されてから、約5年が経過しました。これまでの他県の情報では、成虫の発見から5年経過以降、被害が急増すると言われていました。伊都地方では、令和元年11月にかつらぎ町のももにおいて県内初の被害発見以来、令和4年6月末まで、もも、すもも、うめ、さくら、はなもも等累計212地点、729本の被害を確認しています。生産者の方々は、ご自身の営農資産や果樹産地を守るため、薬剤散布や被害樹への防除対策に取り組まれています。

2. 生態等について

寄主：本県では、もも、すもも、うめ、さくら、はなもも等で確認しています。

かき・もも研究所では、かきの枝に強制的に産卵させ、幼虫が順調に生育しないことを確認しました。

産卵：6月下旬～8月下旬頃、幹や樹皮の割れ目に、白くご飯粒のような卵を産卵します。

幼虫：食害は、株元だけでなく、高さ3mまでの範囲で直径5cm以上の枝は狙われます。

11月～3月は樹体で越冬し、1～3年で樹体から成虫が脱出します。脱出した孔は楕円形です。

成虫：5月下旬～8月上旬の昼間に活動しますが、夜間に飛来を確認した情報もあります。

夜間は主に樹冠上部で生息し、日中は主枝や幹に降りてくる場合が多く、かき・もも研究所の調べで、午後2時に最も活動することが知られています。

被害：同一園で産卵して頭数が増加し、概ね年間2～3kmの範囲で被害が拡大するとともに、産卵後体が軽くなった成虫は約7～8km離れた場所まで飛翔し、残りの卵を産卵する可能性があります。また、車に留まり遠くまで運ばれている可能性も考えられています。

3. 伊都地域の推進体制、被害樹の発生状況、成虫捕殺

(1) 伊都地域の推進体制

伊都地域では、伊都地方農業振興協議会果樹病虫害防除対策会議（構成員：被害が発生している橋本市、かつらぎ町、九度山町、紀北川上農業協同組合、県かき・もも研究所、農業共済組合、伊都振興局）において、被害調査、防除対策指導、成虫捕殺及び啓発活動等を実施しています。また、昨年から5～6月頃と9～11月頃の年2回、JAグループ和歌山農業振興センターや県の関係機関から職員派遣の協力を得て、特別警戒調査を実施しています。

(2) 被害樹の発生状況

伊都地域における令和4年6月末までの被害は、かつらぎ町が最も多く121地点、525本で、前年に比べ約2倍増加しました。橋本市では、91地点、202本（令和3年6月末：14地点、26本）で、前年に比べ地点は6.5倍、本数は7.8倍と大幅に増加しました。九度山町では、2地点、2本（令和4年1月すもも1本、6月もも1本）を確認しました。

(3) 成虫捕殺

成虫の発生時期は6月～8月とされており、この間に成虫が飛散及び産卵し被害が拡大します。令和2年は6月23日～8月4日まで93匹、令和3年は5月29日～8月5日まで75匹、令和4年は6月10日～8月10日まで176匹を確認・捕殺しました。令和3年、4年ともに、紀ノ川に近い園や平野部での発生が早く、少し遅れて山間部での発生がみられる傾向でした。令和2年、3年は、前半の時期にオスが多く、後半にメスがみられる傾向でしたが、令和4年は早くからメスが発生しました。

4. 防除対策

(1) 掘り取りによる幼虫の刺殺

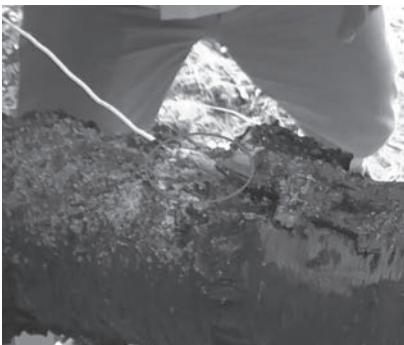
園地を巡回してフラスを見つけたら、マイナスドライバーとハンマーでフラス排出付近の樹皮を剥ぎます。樹皮下の形成層が食害され、水分や養分の流動が止まるので、被害が大きくなる前の早期発見と早期の処置が重要です。幼虫は形成層をある程度食害して成長した後、サナギになるために木質部深くに侵入(30～40cm)するため、針金(太さ約2mm)を差し込み刺殺してください。先端を曲げておくと刺殺した幼虫を取り出したり、刺殺した幼虫の体液が付着するので確認に有効です。また、スプレー型の薬剤を食入孔に噴射することもお勧めします。

(2) ネット被覆による成虫脱出防止

夏場に成虫が樹体から脱出するため、早期に被害を発見した樹や園地については、他の健全樹や周辺への被害の拡大を防止するため、目合い4mm以下のネットを用い、被害樹を被覆する対策にもご協力をお願いします。

(3) 伐採(抜根)による幼虫駆除

伐採(抜根)は確実に幼虫を駆除できるため、被害拡散防止効果が最も高い防除対策です。成虫が飛び出さない時期に伐採し、抜根できない株元は、目合い4mm以下のネットとブルーシートで覆い、周辺に土やマルチ抑え等を用いて密閉してください。なお、伐採した樹は枯れても成虫が脱出するので、粉碎または焼却処分が必要です。



幼虫の刺殺



ネット被覆



伐採・被覆

注) 成虫の飛散防止のために被覆

5. おわりに

かつらぎ町や橋本市では、被害がほぼ全域に広がっており、今後は新たな被害がどこで発生してもおかしくない状態です。皆様には成虫の発生する6月～8月には一斉防除の実施と、今まで以上の園地の見回りによる被害の早期発見に努めるとともに、もしも被害が発生した場合は、今回の紙面でご紹介した対策等を実施し、被害の拡大を防止していただくようお願いします。

普及活動レポート

REPORT

「有田みかん産地」多様化する就農形態に対応した新規就農者の確保対策

有田振興局 農業水産振興課

1. はじめに

温州みかんを中心とした柑橘の主産地である有田地域では、販売農家数が2010年に比べ2020年は881人減少して3,040人、農業経営体の65歳以上の農業従事者は59%を占め（農林業センサス）、農業者の減少と高齢化が進んでいます。

一方、近年は世代を飛び越えた就農、季節雇用からの就農、第三者継承等様々な形態の新規参入者が増加傾向であるとともに、みかんの販売単価は比較的安定していることから、Uターン及びIターン等の新規就農希望の相談も増加しています。また、コロナ禍の影響で離職者が増加していることから、就農へ誘導できるチャンスでもあります。

そこで、これらの多様化する就農形態に対応した新規就農者の確保と円滑な育成に取り組むため市町等関係機関と協力し、就農者の受入体制を構築するとともに新規就農者の早期の経営安定化を支援し、産地の維持・発展を目指す活動を行っています。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) 新規就農希望者受入体制の整備

ア 新規就農希望者受入協議会の設立支援

就農希望者の受入体制の整備に向けて管内市町と協議を重ねた結果、研修生受入農家（農業後継者育成に意欲のある農業者）や関係機関（JA、町）で構成される農業後継者受入協議会が有田川町で設立されました。

この協議会は、新規で農業を始めたい方の相談窓口となり、年間研修スケジュールや実践的な研修カリキュラムを整備しています。現在、4人の研修生がこの協議会で研修しており、就農にむけて技術の習得を行っています。

また、当協議会をモデルとして管内他市町にも働きかけを行い、設立支援を行っている所です。

イ 多様な就農形態による就農者の確保

法人への雇用就農者に対して聞き取り調査等を行い、独立自営就農への意向を聞き取っています。独立自営就農の希望者には就農相談を行い、栽培技術指導や制度資金・各種施策活用等の情報提供を



有田川町農業後継者受入協議会発足

行っています。また、市町と連携して後継ぎのいない農業者の情報収集を行い、マッチングを実施するなどの支援を行っています。その結果、令和3年度は2名の新規就農者が第三者継承として独立自営就農を開始しています。

(2) 新規就農者への積極的支援

ア 早期独立経営への支援

就農して5年目までの農業者を対象とした「アグリビギナー研修会」を開催し、栽培技術（柑橘の防除、接ぎ木、摘果、せん定等）の向上を図っています。

他にも、省力化、雇用改善および販路拡大のため、「わかやまスマート農業フェア」、「農業雇用改善セミナー」等研修会やイベントの情報提供を行い、参加を促しています。



アグリビギナー研修会

イ 経営拡大への誘導、儲ける農業者の育成

新規就農者の経営拡大への誘導として、これまでの過去5年間の新規就農者調査や普及活動の中で把握した新規就農者120名について、就農形態や栽培作物別にリスト化し、これまで接点のなかった新規就農者に対しても効率的に支援できるように整備しました。このリストを活用し、順次営農相談を行っています。



新規就農者に対する選果指導

また、優れた技術を次世代に伝承するため、JA、市町と協議して温州みかんで卓越した栽培技術を持つ「匠の技伝道師」候補者を選定、認定されました。「匠の技伝道師」を講師とした研修会を計画していましたが、コロナ禍の影響で開催ができていない状況が続いています。高度な栽培技術や経営技術を次世代の若い農業者に継承していきたいと考えています。



新規就農者に対する経営指導

3. 今後の取り組み

令和3年度は有田川町農業後継者受入協議会が設立され、就農希望者の新たな研修先として稼働しました。今後は関係機関と連携しながら有田地域のさまざまな経営形態の先進農家の参入を勧め、研修生の希望に沿った協議会に発展していきたいと考えています。また、当協議会をモデルとして他市町に波及させていく予定です。

早期独立経営への支援として、コロナの状況や就農者の意向を把握しながら研修会などを実施し、また、個別指導も充実させていく予定です。

経営拡大への誘導、儲ける農家の育成について、匠の技の技術習得希望者とのマッチングや研修会を開催し、新規就農者および若手農業者の更なる技術向上を図りたいと考えています。

普及活動レポート

REPORT

多様な担い手の育成と就農支援体制の充実

日高振興局 農業水産振興課

1. はじめに

日高地方は比較的若い後継者が多く、新規就農者のうち約57%が39歳以下（令和3年度新規就農者調査）となっています。青年就農者の早急なスキルアップのために、農業の基礎知識や販売・流通に関する知識を習得する機会が求められています。一方、これまで産地を支えてきた篤農家が有する卓越した農業技術を着実に次世代に継承する必要があり、世代を超えた交流による技術の継承が必要となっています。

近年では新規参入による就農者が増えつつありますが、農業経験や技術の不足とともに地域になじめない事例も見られています。また、女性は農業の担い手として重要な役割を果たしていますが、社会的活躍の場は依然少なく、営農活動への参画を促す必要があります。

このような状況を踏まえ、若い農業後継者や新規参入者、女性農業者等を対象とした団体活動への誘導と活動強化、技術継承について支援を行っています。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) 4Hクラブの活性化支援

令和3年度の活動として、日高地方4Hクラブ連絡協議会では農業技術、経営管理、地域課題等の解決方法を学ぶため、(株)農業総合研究所美浜集荷場を訪問し、現地研修会を開催しました。クラブ員は集出荷の流れを見学しながら議論を交わし、新たな販路について考える学びの場となりました。

また、農村青年交流会を由良町で開催し、みかん収穫体験を通じて県内で異業種に従事する青年と交流を深めることができました。クラブ員による新規加入促進活動を支援するため、活動内容を解りやすく紹介したPRチラシを作成しました。

各地域の4Hクラブでは、クラブ員が主体的に取り組むプロジェクト活動への支援を行いました。



現地研修会



4HクラブPRチラシ

(2) 研修メニューの充実

4Hクラブ員や新規就農者、青年農業者らを対象に、青年農業者能力向上実践講座「農トレ！ひだか」をオープンセミナー形式で開催し、労働力確保やうめの新品種等に関する研修会を実施しました。

また、優れた栽培管理技術を有する農業者として認定された「匠の伝道師」を講師に招き、4Hクラブ員や青年農業者、新規参加者等を対象に研修会を開催することにより、その技術継承に取り組みました。

(3) 新規参加就農者や若手女性農業者への支援強化

新規参加の就農者や若手女性農業者について、各種オープンセミナーの開催等について情報提供を行いました。特に印南町農業士会では、女性の農業士が数年間不在であったことから、女性の農業士の新規認定に向けて力を入れました。その結果、令和3年度には3名が地域農業士に認定されました。

日高地方農業士会では、女性部会を設置し、先進地研修会や現地研修会に取り組んでいます。



農トレ！ひだか



うめの樹を観る研修会

3. 今後の取り組み

青年就農者や新規就農者に対しては、引き続きオープンセミナーの内容の充実を図り、知識・技術の習得の場を提供します。また、4Hクラブ活動の活性化支援や活動をPRすることにより加入を促進し、地域に根ざした担い手の育成や確保に取り組めます。

また、若い女性の農業士への支援強化として、農業士等の団体活動への誘導により、営農活動への参画を図ります。

普及活動レポート

REPORT

持続的なうめ産地の発展

西牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

西牟婁地域の基幹作物であるうめは、暖冬や開花期の天候不順の影響で作柄が大きく変動し、生産量や価格が不安定になっています。また、農業従事者の減少や高齢化が今後ますます加速することが見込まれ、産地を維持していくためには高齢者等の作業負担の軽減や後継者・新規参入者の確保が課題となっています。

このため、JA紀南やうめ研究所と連携し、うめ「南高」の生産安定対策として、自家和合性新品種「星秀」を受粉樹として導入するとともに、摘心栽培を推進し、青梅収穫の軽労化が図られる低樹高化にも取り組んでいます。また、高齢農家等の作業負担を軽減するため、せん定や草刈りといった農作業受託組織の育成と受委託調整機能の整備に向けた検討を関係機関と連携して行うとともに、今後ますます多様な担い手の確保が急務となる中、国や県の担い手確保事業を活用しながら、地域農業に即した新規就農者の受け入れ体制の整備を推進しています。

2. 取り組みの経過

うめ「南高」の摘心栽培は、「5月中下旬の2回目処理が農繁期で実施できない」との意見があり、大幅な面積拡大には至っていません。そこで、4月下旬以降に実証園他3カ所で摘心講習会を実施し、充電式電動バリカンを用いて摘心処理が省力的に行えることを紹介しました。今年は生産者及びJA紀南営農指導員延べ48名が参加し、実際にバリカンを使って体験しました。実証園での収量や徒長枝発生本数の調査結果についてJA紀南生産販売委員会連絡協議会で報告し、処理の有効性をPRしました。

また、摘心講習会時に「摘心樹のせん定方法についても講習会を開催してほしい」との要望があり、田辺市内の実証園2カ所でせん定講習会を開催し、生産者及びJA紀南営農指導員延べ34名の参加がありました。また、低樹高栽培の現地実証として、田辺市秋津川の実証園で3年間の摘心処理により、樹下部に結果層ができた見本樹で主枝の切り下げも行いました。自家和合性新品種「星秀」を受粉樹として導入推進するため、生産者とJA紀南営農指導員と協力して田辺市、上富田町内において、高接ぎによる現地実証園を設置しま



「南高」摘心処理講習会（田辺市中三栖）



「南高」摘心処理樹せん定講習会（田辺市秋津川）



「星秀」高接ぎ講習会（田辺市秋津川）

した。

農作業受託組織の現状を情報共有するため、J A紀南や農作業受託に取り組んでいる管内の農業法人の代表者と意見交換を行いました。また、管内のせん定作業受託組織の現状や課題を把握するため、J A紀南営農指導員や受託組織の代表者に直接聞き取り調査を行い、取りまとめた内容をJ A紀南指導部と情報共有を行うとともに、受委託調整機能の整備に向けて意見交換を行いました。

紀州田辺新規就農者育成協議会の取り組みをモデルとして、うめ生産者が多い上富田町に対して新規就農者の研修受入体制の整備について働きかけを行いました。上富田町、田辺市及び経営支援課担当者と検討会を開催し、田辺市モデルの紹介、国や県事業の活用などについて意見交換を行いました。また、上富田町内の研修受入候補となる農家5名に対して、同協議会のメンバーを講師に実体験を交えた講話と情報交換を行いました。さらに、今後の受入体制の整備に向けた具体的な手順について、上富田町やJ A紀南指導部担当者と協議しました。



研修受入候補生産者研修会
(上富田町役場)

3. 活動の成果

省力的な摘心処理方法や摘心樹と通常のせん定方法の違いについて講習会を実施した結果、導入面積が9haに増加しました。また「南高」の摘心処理と低樹高栽培の実証園を田辺市秋津川に設置しました。受粉用品種として、「星秀」は生産者の関心が高く、田辺市と上富田町に高接ぎの現地試験圃場を圃地条件等が異なる12か所で設置しました。

農作業受託組織についての情報収集を行ったところ、田辺市と上富田町内で9組織を把握することが出来ました。受託組織における現状と課題、今後の支援策等について、代表者等から聞き取り調査を行い、J A紀南指導部と情報共有や意見交換を行い、課題の掘り起こしを行うことが出来ました。

新規就農者受入体制の整備の必要性について、上富田町との意見交換や協議を重ねた結果、上富田町農業振興協議会が中心となり、令和4年6月に新規就農者受入組織が設立されました。

4. 今後の取り組み

「南高」摘心栽培の推進に加え、青梅収穫の省力化を図るため、低樹高栽培の試験ほ場を設置し、研修会や検討会において、その有効性を周知します。「星秀」の高接ぎ試験ほ場での現地適応性や開花期間を関係機関と調査、検討します。

農作業受託にかかる課題を解決するため、農作業受委託調整機能の整備に向けて関係機関と引き続き協議を進めます。また、新規就農者受入体制の整備について、上富田町農業振興協議会に対し支援を行うとともに、田辺市、上富田町に対して新規就農者の育成確保についての活動PRや新規就農者向け経営モデルの作成支援を引き続き行います。

普及活動レポート

REPORT

いちごを重点活動とした普及活動

東牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

令和4年度の普及活動は、重点課題の「半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化」、一般課題の「じゃばら・ゆずの安定生産対策」、「地域の特性を活かした野菜の産地育成強化」に取り組んでいます。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) 半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化

地域で生産されるいちごは、「くろしお苺」として親しまれ、地元市場から高く評価されています。しかしながら、生産者の高齢化や平成23年の紀伊半島大水害による被害もあり、生産が需要をみたまない状況となっているため、産地の維持や水害前の産地規模への復興に向けた普及活動を行っています。

いちごに特化した就農支援体制の整備を支援し、令和2年度に生産者・JA・関係町で構成するみくまの産地協議会が設立され、管内での新規就農者の研修等の支援を行っています。当課はオブザーバーとして協議会に参画しています。今年度、協議会の構成に新宮市が加入し、管内での就農支援体制が強化されました。

就農希望者に対しいちご栽培を主とした農業経営を提案するため、協議会で作成した「産地提案書」や「イチゴ新規就農支援プログラム」を活用し、就農相談等に対応しています。

那智勝浦町において6月に1名（1ターン）が就農し、協議会設立後に支援した新規就農者は2名となりました。また、新たに新宮市の1名（1ターン）が9月から就農にむけ研修を開始しています。

また、新規就農者を含むいちご生産者全体を対象とし、いちごの高品質・多収に向けた栽培技術向上による経営の安定化を図るためJAと連携し病害虫対策等の研修会を開催しました。また、気象災害による経営リスクの低減を図るため国庫や県単を活用した耐風性ハウスや高設栽培施設の導入を推進しています。



いちご炭そ病検定研修会
(新規就農者の定着支援)



新たな就農希望者の支援（新宮市）

(2) じゃばら・ゆずの安定生産対策

じゃばらは、樹体の高齢化やカンキツ幹腐病の発生により生産量確保対策が必要となっているため、新植・改植を推進しています。カンキツ幹腐病は、東牟婁地方のような降水量が多い地域で発生しやすく、管内ではじゃばらやゆずで発生しています。その対策として、北山村大沼のじゃばら園に幹腐病対策の実証ほ10aを設置し、間伐や殺菌剤使用等による対策技術の効果を確認するとともに、生産者に対策技術の徹底を指導しています。

ゆずは、生産者の高齢化・担い手減少により栽培管理が十分に行われず、隔年結果、カンキツ幹腐病の発生、鳥獣被害等が課題となっています。高齢者が安全に作業をできるように樹形改造（低樹高化）やカンキツ幹腐病対策を推進しています。



じゃばらの新植園地
(令和3年春定植)

(3) 地域の特性を活かした野菜の産地育成強化

地産地消を目的とした野菜のミニ産地づくりや耕作放棄地解消に向けた普及活動を行っています。

くろしお熊野やさいグループが取組んでいるくろしお熊野野菜の13品目(ほうれんそう、こまつな、葉ねぎ、しゅんぎく、ピーマン、ししとう、なす、とうもろこし、えだまめ、ブロッコリー、キャベツ、にんじん、葉しょうが)について、現地検討会等で現地指導しています。



くろしおナス現地検討会

3. 今後の取り組み

いちご（重点課題）に関しては、令和2年度にみくまの産地協議会が設立され、就農希望者の支援体制が構築されました。今後も、いちご栽培を主とした農業経営について県Uターン就農相談フェア等で紹介し新規栽培者を確保するとともに生産者全体の経営の安定化を図るため、関係機関と連携しながら普及活動を展開し、平成23年の紀伊半島大水害前の産地規模への復興を目指します。

全般的には、新型コロナウイルス感染症の関係で中止していた先進地研修(県外)が数年ぶりに実施される等、生産者の交流の場が復活の傾向です。そういった良い機会を設定しながら普及活動を展開していきますのでご協力をよろしくお願いします。



数年ぶりの先進地視察
(なす、京都府、日帰り)

地域の逸品!!

いちご農家を作る、“まりひめ”いちごたっぷりクレープ

紹介者

和歌山市 青年農業士

栩野雄平

1. 商品の紹介

いちごの季節は、私が生産したまりひめいちごをたっぷり使ったクレープを、それ以外の季節は、知り合いの農家さんより仕入れた旬の果物（例えば、桃やマンゴーなど）を使ったクレープを提供させて頂いております。

いちごクレープに関しては、朝採れ完熟のまりひめいちごを使用していますので、甘みや風味も強く、ジューシーないちごを味わえるクレープに仕上がりました。

また、いちごや果物以外にもこだわりがあり、特にクレープの生地に関しては、自家配合しており、一部に米粉を使用することにより、程よいもちり感の生地に仕上がっています。

インスタ映えする様なクレープもありますので、見た目でも楽しんでいただけたらと思います。

最後になりますがクレープ屋を始めた経緯ですが、元々、料理教室の先生をしていた妻の希望や、地域や観光で来られた方々に、まりひめいちごをもっと知ってほしいという私の希望が重なり、2022年5月に和歌山市井ノ口にいちご直売所兼クレープ屋を開店しました。お近くにお越しの際は是非ともご来店お待ちしております。

2. お問い合わせ先等

とちのいちご園 和歌山市井ノ口311-4

TEL：073-477-7033

営業時間：11：00～17：00

※営業日は季節によって変動

Instagramで情報発信 [tochino.ichigoen](#) で検索してください。



「まりひめ」を使ったクレープ



販売店舗

こんな技術知ってる？

柿の自家脱渋装置

紹介者

橋本市 地域農業士

木下善久



1. 技術の概要

(1) たねなし柿の脱渋

たねなし柿は渋柿です。一般の人は、知らないかと思いますが、たねなし柿は収穫した時点では渋柿で、食べる事ができません。では、何故スーパー等で売っているたねなし柿は、食べる事ができるのか？。それは、選果場に出荷して、炭酸ガスで渋を抜いているからです。

脱渋のサイクルは、刀根早生柿（25℃の温度でガス入れ18時間、予措時間24時間）。平核無柿（25℃の温度でガス入れ24時間、予措時間48時間）となります。

(2) 柿娘（松山産業株式会社製）

1999年から柿の価格低迷が発生し、選果場では下位等級品（並品、S級以下）の荷受けを停止した事により困りましたが、選果場が荷受けしない柿を買ってくれる大阪の業者を紹介して頂き、取引が始まりました。柿の渋を抜くのに、選果場ではコンテナ1箱500円が必要です。

そこで、2001年に自分の所で脱渋する為に柿娘を購入し、自家脱渋を始めました（2台有りますが、1台は2011年に購入）。

この機械は、900Wのヒーターと38Wのファンが装備され、ファスナーにて密閉状態を作る事が可能です。一度に50箱の脱渋ができます。

但し、10月になり、果実温が低下すると、25℃に加熱した場合、柿の表面に結露が発生し、それが汚染（黒変果）の原因となり、商品価値を著しく低下させます。機械の中に除湿機を入れたりしましたが、中の循環がうまくいかず、除湿がうまくいきませんでした。

(3) 昇降式自家脱渋装置

そこで、昇降式の自家脱渋装置を購入しました。

この機械は、2000W（200V）のヒーター、350Wのファンが装備され、最大60箱の脱渋が可能です。また、内部循環がうまく行き、除湿機を内部に入れる事により、汚染（黒変果）の発生も起こらなくなりました。

2. 最後に

自家脱渋装置の運転にかかる電気代、ガス代のランニングコストを計算すると、コンテナ1箱あたり80～100円と試算できます。自家脱渋装置を導入することにより、選果場が荷受けしない下位等級品も含めて販売する事ができます。手間はかかりますが、自家脱渋は経営を行う上で有利な取り組みと考えています。



柿娘



昇降式の
自家脱渋装置



装置内

地域の逸品!!

「由良みかん染め」で由良産みかんをPR

紹介者

由良町 指導農業士

片山綾子

1. 商品の紹介

由良産みかんのPRになればと、自農園で栽培する温州みかんを活用し、「みかん染め」に取り組んでいます。

温州みかんの果皮、枝、葉の乾燥させたものを煮詰めて、染液を作ります。シルクや綿・麻（綿・麻は豆乳等で濃染処理）の布を、染液に20分ほど漬けた後、ミョウバン液などの媒染液につける作業を繰り返し、水洗いをし、アイロンがけをして、「みかん染め」が出来上がります。今まで染めたものには、スカーフやストール、ポケットチーフ、エコバックやマスクなどがあります。また、染め上げた生地をつかって、ティッシュケースやコサージュを作成しました。これらの商品は、白崎海洋公園やゆらっと紀州の産品販売所で販売しています。



みかん染めカーディガン

2. 夏休み子ども講座

今年、初めての取り組みとして、由良町公民館主催の夏休み子ども講座で、小学生達と、「みかん染め」を体験しました。シルクのハンカチに模様をつけるために輪ゴムを使い、みかん染めをしました。レモンイエローに染まったハンカチは、子供達に気に入っていただきました。みかん染めの作業をしながら、由良産みかんの素晴らしさや農業に対する思いもお話しすることができました。

みかんは食べるだけでなく染めることもできます。そして、それを身に着けることにより、由良産みかんのPRになればと思っています。同時に農業についても興味を持ってもらえたらと考えています。

丹精込めて栽培している温州みかんの「由良みかん染め」の取り組みを通じて、由良産みかんの素晴らしさを伝えていけたらと、考えています。



夏休み子ども講座
「みかん染め」体験

3. お問い合わせ先等

住所：〒649-1103 日高郡由良町門前711

片山農園（担当：片山綾子）

TEL：080-1511-8028

FAX：0738-65-2762

地域の逸品!!

加工の楽しみは、「まりひめ」の甘い香り

「くろしおいちごジャム」

紹介者

那智勝浦町 青年農業士

栗野 稔 近

1. 商品の紹介

那智勝浦町苺生産組合の婦人部（代表：太田ちよ子氏）による手づくりの「くろしおいちごジャム」を紹介します。

当地域でいちご栽培が始まって半世紀が経過しましたが、栽培を開始した直後から生果販売が難しい規格外品の活用を目的に、手づくりのいちごジャムが作られてきました。現在の「くろしおいちごジャム」は、平成6年の加工施設整備を契機に製品化され、地域で親しまれる逸品になっています。

半世紀の歴史の中で、加工原料となるいちごの品種は交代してきましたが、現在は県育成品種の「まりひめ」で製造しています。

ジャムづくりは、規格外や生果販売終了後の果実を冷凍保存し、加工と販売を通年でできるようにしています。加工は、大鍋一つにまりひめ20kgを使用し、瓶詰め製品100個ができあがります。ほとんどの作業が手作業のため、大変なことも多いと思いますが、皆さんは無駄のない手慣れた手つきで作業しています。近年、当産地においても、高品質な生果の生産に力を注いでいるため、加工に取り組み始めた頃に比べると、加工用果実の確保が難しくなっています。それでも元農業士を含む女性グループの方々は、大鍋から立ち上る“まりひめの甘く濃い香り”に包まれながら、地域産いちごの加工を楽しんでいます。

なお、食べ方として、ヨーグルトにジャムを混ぜて、生果がある時期は生果を混ぜるのがお気に入りとのことでした。

2. お問い合わせ先等

那智勝浦町苺生産組合 婦人部

代表：太田ちよ子

TEL：0735-57-0519

ジャムを購入できる場所：農産物直売所（那智駅交流センター、交流センター太田の郷、JAみくまのAコープ等）



手作業は体力勝負



密封処理前



商品410円（税込み）/個

[クビアカツヤカミキリ対策] 早期発見、早期駆除が重要！

- 令和元年11月にかつらぎ町で県内ではじめて被害が確認されて以降、紀ノ川流域のもも、すもも、うめ、さくら等で急速に被害が拡大しています。
- 成虫は5月下旬から8月にかけて発生し、樹皮表皮や割れ目などに産卵します。幼虫は樹の内部を食害し、1～3年かけて成長し、成虫となります。幼虫は3月下旬から10月にかけて活動し、フラス（虫糞と木くずが混ざったもの）を排出します。
- 幼虫の食害により、被害樹は枯死に至ることもあります。
- 生産者の方々は、常に園地をよく見回り、フラスや成虫を発見したら最寄りの振興局またはJAに連絡（発生地域を把握）するとともに、防除対策を徹底するようお願いします。
- 被害は発生地域から離れたところで突然広がることもあります。早期発見、早期駆除が最も重要になりますので、現在被害のない地域でも最大の警戒をお願いします。

○フラスを探す（3月下旬～11月）

※排出量が多い場合は11月以降でも確認できます！



株元に溜まったフラス



フラスのあるところに幼虫がいます



ミンチ状のフラス

○成虫を探す（5月下旬～8月）



成虫は体長2～4cm、光沢のある黒色で、前胸（クビ）は赤色です。繁殖力が強く、1頭あたり平均350個産卵し、1,000個以上の産卵事例もあります。

防除対策

- フラスを発見した場合は、幼虫の掘り取り、捕殺をしてください。フラス排出場所の表皮をマイナスドライバー等ではずし、太めの針金等を用いて食入孔のフラスを掻き出し幼虫を刺殺します。幼虫にはスプレー型の農薬の注入も有効です。
- 掘り取り、捕殺、農薬注入した後は、被害樹に4mm目合いのネットを2重に巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に拡散するのを防ぎます。
- 被害木の伐採・抜根が被害を広げない最も有効な方法です。成虫脱出時期以外の9月～翌年4月に行ってください。伐採木は放置せず、直ちに破碎あるいは焼却するなど、適切に処分します。園外へ持ち出す場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で運搬するようにしてください。
- 成虫は発見次第捕殺してください。特定外来生物に指定されており、生きたまま移動させることは禁止されています。
農薬散布も有効です。被害地域では収穫後の追加散布をお願いします。

支援策（病虫害防除対策事業）

県では、被害樹の伐採、抜根、ネット被覆に対する費用を支援しています。詳細は、最寄りの振興局にお問い合わせください。

(参考) 農業士について

昭和 51 年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士 (65 歳まで)」「地域農業士 (65 歳まで)」「青年農業士 (40 歳まで)」の3つの区分がある。

令和4年4月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	139 名 (うち女性	27 名)
地域農業士	528 名 (うち女性	49 名)
青年農業士	121 名 (うち女性	1 名)
合 計	788 名 (うち女性	77 名)



表紙の人

由良町 指導農業士

平林 孝郎さん

平林さんは由良町吹井地区でニンニク、温州ミカンを栽培されています。

「ニンニク栽培は土づくりが重要」と話される平林さん。早生の種苗を選別し、早期出荷で高単価なニンニクに取り組まれています。

また、趣味でニホンミツバチを飼育しています。

和歌山の農業士 第 19 号

発行日：令和4年11月

編 集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印 刷：有限会社 隆文社印刷所



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

